

2019年7月23日

藤沢市教育委員会教育長 様

藤沢市教科用図書採択審議委員会
委員長 村上 孝行

令和2年度使用藤沢市教科用図書に関する審議結果について（答申）

藤沢市教科用図書採択審議委員会（以下審議委員会という）では、令和2年度使用小学校用教科用図書、令和2年度使用中学校用教科用図書及び令和2年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書について、教育委員会の諮問に基づき、審議方針を定め、その方針の「基本的な考え方」にそって、3回にわたり審議してきました。その結果を以下のとおり答申いたします。

1 令和2年度使用小学校用教科用図書についての審議結果について

別表のとおり

2 令和2年度使用中学校用教科用図書についての審議結果について

このことについては、平成28年度から使用している中学校用教科用図書について、「新学習指導要領の移行期間であり、全面実施に向けて現在の教科書を使って計画的に準備を進めている状況であること」、「新たな教科用図書の申請がなかったこと」、「あと一年間だけの使用であること」から、新しく採択替えをする必要はないと考え、現在使用している教科用図書を引き続き使用するものとする。

3 令和2年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書についての審議結果について

このことについては、「子どもの実態や発達段階に応じて幅広く一般図書の採択が可能となるように、昨年度まで採択されている一般図書は引き続き使用できること」「今回審議を行った教科用図書として使用したいと考えている新規図書や複数種目で希望がある一般図書はいずれも適切であること」と、考える。

なお、参考資料として、審議方針と第1回、第2回、第3回審議委員会の会議録を添付いたします。

別表

第2回令和2年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会

議案 令和2年度使用小学校用教科用図書について

審議のまとめ

令和元年7月

藤沢市教科用図書採択審議委員会

第2回令和2年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会
議案第1号「令和2年度使用小学校用教科用図書について」
観点別審議のまとめ

◇国語

◇国語

発行者	観点① 編修の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容・構成、「国語」に係る観点
光村図書出版	「心を、動かす。言葉が、動かす。」という方針の下、確かな国語の力を育む工夫がされている。どの学年の児童にとっても本物に触れる質の高い題材が選択されていると感じる。市の調査員からも「活動に役立つ情報が多く、扱いやすい」と報告がある。
光村図書出版	伝統や文化に関する教育の充実、語彙を豊かにするという国語科の観点から、光村図書出版が工夫されている。2年生以上にある「季節の言葉」という春夏秋冬、年間4箇所ページだが、2・3年生は挿絵と詩、4年生は1年間を季節の行事、5年生は古典、6年生は24節気からというように、児童の発達段階にあわせて多くの言葉を選んでいる。さらに「短歌や俳句を作ってみよう」というように、その言葉を使った活動も示していて、年間を通して語彙を豊かにし、伝統・文化に親しめるというつくりになっている。
光村図書出版	1年生と6年生に表彰状が載っていて、子どもたちにとって親しみのある教科書という印象がある。
光村図書出版	題材ごとに学習の進め方がはっきりと示されている。児童が見通しを持ち、主体的に学習に取り組むことができる構成になっている。どの学年においても、文学的文章や説明的文章は読み応えのある題材を設定している。文学的文章は、生命尊重や人間の尊さを主題にしていて、児童が国語に関心を持ち、興味を持って、主体的に読み進めることができる。 例えば、6年生のはじめに取り上げる物語「帰道」は、思春期の入口を迎えた多感な児童が内容に共感しながら読み進めることができ、個人の価値を尊重する態度を養っている題材である。 また、それぞれの題材では写真や挿絵を効果的に配置し、対応させて読んだり、表などを活用して考えを形成したりまとめたりすることができるようになっている。
光村図書出版	1年生の巻頭は、絵だけで何ページか進み、9ページ目に詩が登場するという構成になっており、初めて国語という学習に出会う子どもに関心を高め、期待を膨らませる効果は大変大きい。
教育出版 光村図書出版	学習の進めやすさという点で、教材の後の学習の手引きが充実している。学習の手順を追ってわかりやすく記述しているため、子ども自身が学習を進める上での、羅針盤として、活用できる。 2者を比べると、光村図書出版は、県の調査資料に「対話的な学びの場面を具体的に提示してある」と記されているとおり、一つ一つの発問が具体的に答えやすい。また、単元と関連した図書の紹介数も多く、読書活動を意識した単元づくりがどの単元でもされている。
教育出版	めあてやねらいが明確に示され、児童の学習の道しるべとして有効である。
教育出版	自分がどう思ったか、友だちがどう思ったかを自然に感じた形で意見を伝え合える。友だちの話や聞くことは自分が話すことにつながり、話すことが聞く力につながる。友だちの意見を聞いて自分の考え方を見つめ直す機会となる。
教育出版	学習の課題を「確かめよう、考えよう、深めよう、広げよう」の4つのステップを示すことにより児童が順を追って主体的に学習に取り組めるように学習の流れを工夫している。自分の考えや情報を伝達するための教材として、様々な媒体を効果的に活用する題材が設定されており、子どもたちが取り組みやすい。
東京書籍	1年生の巻頭には「とんとんとん」という単元がある。大きな挿絵にインパクトがあり、短い言葉と共に、子どもがわくわくするような紙面が続いている。明るく楽しいイメージをもって国語の学習をスタートすることができるのではないかと。
共通	4者(東京書籍、学校図書、教育出版、光村図書出版)とも、主体的・対話的で深い学びとなるように、子どもたちが見通しを持って学習できるよう工夫されている。
共通	都道府県の部分に関して、光村図書出版は、2分割で(2単元に分けて)掲載がされ、他の者(東京書籍、学校図書、教育出版)は2ページ、または、1ページに掲載している。どちらが先生にとって使い易いのか、一長一短であると思う。
発行者	観点② 分量・装丁・表記等
光村図書出版	冒頭に1年間で学習することが見やすい一覧となっているため、子どもたちが主体的に学習を進める中で、振り返ったり、確かめたりする際に、活用できる作りになっている。
東京書籍 光村図書出版	1～4年生は分冊で、5・6年生は年間1冊となっている。年間1冊ということは、重さはあるが、高学年になった自覚や中学校へのつながりという点では、学習の積み重ねを意識できて良い。
学校図書 教育出版	学校図書と教育出版は全学年上下の分冊となっている。軽量化され持ち運びの負担が少ない作りになっている。
発行者	観点③ 本市の児童の実態や地域等の特性との関連
光村図書出版	「くじらぐも」「スイミー」「お手紙」「白いぼうし」「ごんぎつね」「大造じいさんとガン」「やまなし」「海の命」等、親の代から長い間読み続けられている物語文も多く、親子で同じ作品を共有し、家庭学習でも話題にしていることは、教科書を閲覧した本市の保護者の多くが感想として持っていることだろう。
光村図書出版	本市では、中学校での平和学習に力を入れており、最近、修学旅行で広島を訪れる学校が増えている。光村図書出版では、戦争と平和について考える「読む単元」が他の3者(東京書籍、学校図書、教育出版)より早く、3年生以上から各学年に設定されている。中学校の学習に向けて意識を高めることができ、かながわ教育ビジョンにおける「思いやる力」の育成に効果があると思われる。
東京書籍 光村図書出版	高学年では、小学校での学習のまとめとして、「話す、聞く」の単元を工夫して今の自分、これからの自分を見つめる機会が設定できるとよいのだが、東京書籍では、6年で「町の幸福論」についてという単元がある。また、光村図書出版では、「私たちにできること」「今、私は、ぼくは」という単元があり、どちらも自分や地域を見つめて考えをまとめることに適していると思われる。

第2回令和2年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会
議案第1号「令和2年度使用小学校用教科用図書について」
観点別審議のまとめ

◇書写

◇書写

発行者	観点① 編修の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容・構成、「書写」に係る観点
光村図書出版	手本が大きくて見やすく、市の調査資料にもあったように、ノートや連絡帳の書き方のポイントであるとか、はがきや掲示物に字を書くなどの実用的な演習を多く入れていたりする点が良い。
光村図書出版	構成の面からみると、文字が大きくて、各単元が見開きまたは1ページになっている。すっきりとした構成だが、「たいせつ」というマークを設け、「考え、確かめ、生かす」の3ステップで、どの児童にとっても何を学ぶのかがわかりやすいものになっている。また、6年の書写ブックは、8ページの構成で、6年間の学習で身につけたことを他教科や日常生活の中で生かせるようになっている。
光村図書出版	「書写体操」の紹介や別冊の「書写ブック」を通して、書く活動を大切にしようとする姿勢がうかがえ、自分で学習を振り返ることができるようになっている。また、終筆(筆の終わりの部分)の特徴である、はねやはらい、筆の流れを猫をキャラクターにした動きで端的に表していて、児童にとってわかりやすく、関心をもてるようになっている。
学校図書	都道府県の名前を日本地図と結びつけながら漢字で書くページがあったり、ローマ字表に、訓令式だけでなく、英語につながるへボン式も示したりして、教科横断的な学習に工夫がある。また、毛筆のお手本を2ページ分使って大きく示している点も優れていると感じた。
学校図書	児童にとってわかりやすく理解が深まるような構成上の工夫という点で、各単元が「確かめて書こう」「考えて書こう」「生かして書こう」の3段階に分かれており、それぞれ約1ページを使用している。ページ数的には少し増えるが、児童が学習の流れを意識しやすいページ構成になっており、さらに単元のまとめとして、「ふりかえろう」というコーナーに自分の言葉でまとめるスペースがある。また、3年生以上の毛筆では、各単元の教材が全て半紙と同じ大きさで掲載されており、児童が活動しやすくなっている。
共通	各者とも、様々な工夫が見られる。例えば、文字を書く姿勢について、合言葉や体操などの形で各巻のはじめに示し、定着を図る工夫をしている。また、ただ「文字を書く」ということではなく、「主体的、対話的で深い学び」につながるように教材が用意されている点で高く評価できる。「自ら見つけたり確かめたりしたことを、さらに考えたり、振り返って話し合ったりして生かしていく」という流れを、6年間を通して一定の言葉で示し、意識的な学習を促している。さらに、低学年では、楽しみながら繰り返して練習できるように、「水書シート」を用意している点もよい。
共通	いくつかの出版者で「水筆」というのがある。これは、墨ではなく水で書くことと初めて知ったが、墨が手についてしまうことに過敏な子にとって、水で何度も試すことができ扱いやすいと感じた。
発行者	観点② 分量・装丁・表記等
教出版 光村図書出版	毛筆の始まる3年生の教科書でみると、光村図書出版と教育出版は、紙面に使われている色使いが落ち着いているため、文字に注目して学習できる。両者とも、朱墨の穂先で筆使いを示すなど視覚的に捉えることができるため、わかりやすい。また、キャラクターの動きや擬音語を活用し、リズムを体感しながら筆運びを楽しく学べるよう工夫されている。
東京書籍	B5判より幅が3cm程広いAB判を用いている。全体的に書き込める部分が多く、お手本も大きく見やすい印象がある。また、デジタルコンテンツを用いて、より詳しい内容や動画を見られる点が優れている。
共通	表記・表現の観点から、どの教科書も習得すべき知識や技能を系統的に配列し、適切な分量で硬筆と毛筆の学習が設定されている。
発行者	観点③ 本市の児童の実態や地域等の特性との関連
東京書籍 教育出版 光村図書出版	教育出版では2、4、5年生の校外学習のまとめ、東京書籍では2、3年生で連絡帳や観察記録、光村図書出版では、5年生の新聞づくり、といったものが内容も工夫されており、各学年の本市の実態に合った題材ではないかと思う。さらに、光村図書出版は、アイヌ文化や東日本大震災の翌日に発行した手書きの新聞など、かながわ教育ビジョンにうたわれる思いやる力たくましく生きる力を育む上で効果のある題材が掲載されており、多様な生活環境に生きる本市の児童に適していると思う。
共通	冒頭に1年間で学習することが見やすい一覧となっているため、子どもたちが主体的に学習を進める中で、振り返ったり、確かめたりする際に、活用できる作りになっている。

第2回令和2年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会
議案第1号「令和2年度使用小学校用教科用図書について」
観点別審議のまとめ

◇社会

◇社会

発行者	観点① 編修の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容・構成、「社会」に係る観点
東京書籍	社会科は小学校3年生から始まる教科であり、2年生までの学習の、身近な人々や社会と関わる「生活科」との関連がある。 教科間の接続の視点として、県の調査資料「社会の7ページ」に示されているように、生活科との関連が「生活科で学んだこと」と「3年生で学ぶこと」として明記されている。
東京書籍	「本時のめあて」が具体的に示されており、児童が学習課題を持ちやすいと感じた。「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」という学習段階をたどりながら、構造的に学習の流れが理解しやすいように工夫されていた。 D(デジタル)マークが目をつけた。URLか二次元コードから興味・関心を高めるコンテンツに入ることができ、家庭学習や発展学習につながる教育のICT化への対応がなされている。
教育出版	教科間の接続の視点として、「生活科を振り返ろう」というコーナーで、「何を学んだか」「何ができるようになったか」「どうやって学んだか」というように整理されて示されている。このような構成の配慮が、児童にとって取り組みやすいものとする。
教育出版	各単位時間の問いを「この時間の問い」とし、単元のねらいとして「みんなで作った学習課題」が示されている。
日本文教出版	学年の初めに、その学年で一番「大切なこと」というページがある。これからこの1年でどんなことを学び、考えていくかを先に理解できるようになっているのがよいと感じた。
共通	学習指導要領の改訂のポイントとして、どの者も児童が主体的に問題解決学習を進めるために工夫されている。
共通	3者とも今自分が生きている時代だけではなく、これから成長し、生きていくであろう自分の体験にある困難さの上で考える力を身につけるところまで工夫されていると感じた。 環境問題、少子高齢化、防災に絡め、先に起こりうる危険なこともみんなで話し合っていけるよう、工夫されていると感じた。
発行者	観点② 分量・装丁・表記等
東京書籍	5、6年生は2冊で構成。ランドセルの中身が重くなり、一つひとつも厚くなっている。2冊になることで子どもの負担が少なくなる反面、学習したことを振り返ることは難しくなる。
教育出版	1時間の中での学習過程を考え、基本見開き2ページで構成されており、わかりやすい。どのページも、「この時間の問い」で始まり、最後に「次につなげよう」で終わっている。6年生の歴史でも、同じ形が使われているため、歴史の流れや連続性がつかみやすい。
教育出版 日本文教出版	市の調査資料にもあるとおり、各学年は上下巻ではなく、1冊になっている。1年間を見通して単元順を組み替えるなど、各学校で柔軟な教育課程が編成できると考えられる。
共通	単元内での学習過程を考えた紙面構成となっている。
発行者	観点③ 本市の児童の実態や地域等の特性との関連
東京書籍	冒頭に1年間学習することが見やすい一覧となっているため、子どもたちが主体的に学習を進める中で、振り返ったり、確かめたりする際に、活用できる作りになっている。
東京書籍 日本文教出版	5年生「高い土地のくらし」では、2者(東京書籍、日本文教出版)が群馬県嬭恋村のキャベツづくりを取り上げている。
教育出版	子どもたちは3年生になると、自分が住む町を探検し、市、県へと広がっていき、その中で自分の地域に関心や愛着を持つことが出来るため、どの教科書が本市の子どもたちに親しみやすいかという観点で見た。 神奈川県や本市にゆかりのある人物や地域が大変多い。例えば、3年生の「私たちのまちと市」では、隣の横浜市を取り上げている。また、「はたらく人とわたしたちのくらし」の中には、崎陽軒のシウマイづくりを扱っている。4年生の「水はどこから」では、相模ダム水系を扱っており、その水が寒川浄水場、さらに本市へ水がきていることがわかる。「昔から今へと続くまちづくり」では、地域に学校を開くという中で小笠原東陽の話が載っている。さらに、「わたしたちの県のまちづくり」では箱根の寄木細工が登場する。5年生は県を超えて国土の学習をしていくが、「日本の国土とわたしたちのくらし」では、藤沢市八ヶ岳野外体験教室のある南牧村を扱っている。行ったことや見たことがあり、自分たちが暮らす地域となじみがある場所が教科書に載っているということは、児童が関心を持って主体的に学びに向かえるのではないかと。
日本文教出版	3～6年生まで、教科書に登場する人物も一緒に成長しているところが面白い。
日本文教出版	「自然災害から人々を守る」という言葉と内容が、被災者の言葉も載っており、よく伝わると感じた。
共通	5年生自然災害のページのタイトルが「自然災害を防ぐ」(東京書籍)「自然災害とともに生きる」(教育出版)「自然災害から人々を守る」(日本文教出版)と、それぞれ若干違っている。

第2回令和2年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会
議案第1号「令和2年度使用小学校用教科用図書について」
観点別審議のまとめ

◇地図

◇地図

発行者	観点① 編修の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容・構成、「地図」に係る観点
帝国書院	視覚的に大変見やすい。また、最初に「地図って何だろう」「地図のやくそく」というコーナーで、地図の成り立ちや、方位、地図記号、距離の求め方などをわかりやすく解説してある点も、導入として非常に効果的であると感じた。また、後ろの資料に、「日本の自然災害と防災」について解説がある。それを帝国書院の方は、自分の地域の「防災マップづくり」にまでつなげているところがすばらしい。さらに、全体を通して「地図マスターへの道」というクイズのようなコーナーが各ページにある。それに答えて後ろのすぐろくのようなコマを埋めていくという、ゲーム感覚で社会的な「知識」や「見方・考え方」を考えられる工夫もよいと思った。調査資料にもあったように、家庭学習にも生かせると思われる。また、「コンテンツメニュー二次元コード」があり、タブレットPCで資料が見られるようになっており、これからの授業のICT化に即していると感じた。
帝国書院	「世界の国からこんにちは！」では、地域の各国の特産とともに国名も記されている。国名が記されていることにより児童がよりそのページに引き込まれるのではないかと考える。その他にも、市や県の調査書にも記載されているように、方位や地図がかかれた「地図のやくそく」が丁寧にわかりやすく記されている。3年生の導入学年だけでなく、高学年になっても使い続けることができると思われる。
東京書籍	冒頭の「地図のぼうげんに出発！」は、見ている楽しく、イラストと地図を見て児童が様々つぶやきながら、主体的に調べ学習を深める様子が想像できる。また、キャラクターが吹き出しで色々なページに登場し、その吹き出しで児童が自然に地図を見る視点を持つことができると思う。
共通	編集の基本方針がしっかりと地図帳に反映されており、必要なことが網羅されていると思われる。
共通	学習指導要領の改訂の視点から見ると、児童にとってわかりやすく、自ら主体的に学習を深めていく工夫が色々な所に盛り込まれていると感じた。
発行者	観点② 分量・装丁・表記等
帝国書院	「広く見わたす地図」「○○地方」などは、山地と平野の色分けが、必要最小限にされていて、全体的にとでもすっきりとした印象で見やすい。眺めていても、目にも優しい感じがした。地方ごとの特産物のイラストが、たくさん入っているが、小さい表記ながらも、色合いが工夫されており、全体の中でも、一目で「ここにこういう特産物があるんだな」というのが、とても分かりやすく表現されている。色合いがすっきりしているということと関連し、「～県」というフォントも太くて読みやすく、全体の中でも目に飛び込んでくるような感じがする。地形・イラスト・文字等、地図の中にある、たくさんの情報量が認識し易く工夫されている。初めて地図帳を手にする3年生に適切である。
発行者	観点③ 本市の児童の実態や地域等の特性との関連
帝国書院	地図を手にして、藤沢市の地域性というところが大変学習に関連付けやすいと思った。市の調査資料の「本市の実態や地域等の特性」で、八ヶ岳と本市にとってゆかりのある資料が載っており、学習に生かしやすいと思った。家庭の中でも振り返ることができるので、非常に良い。
帝国書院	市の調査資料にもあるが、「高地の暮らし」で本市の小学5年生が毎年訪れ、授業でも扱っている八ヶ岳野外体験教室のある南牧村についての記載がある。また、「日本の歴史と世界文化遺産」の所では、鎌倉の地図や切通しの写真が掲載されているというところから、本市の児童にとっては、より適しているのではないかとと思われる。

第2回令和2年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会
議案第1号「令和2年度使用小学校用教科用図書について」
観点別審議のまとめ

◇算数

◇算数

発行者	観点① 編修の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容・構成、「算数」に係る観点
東京書籍	<p>入門期の算数の教科書として良いと思ったのは東京書籍である。1年生は上下に分冊されているが、1冊目はA4判44ページという薄いものになっている。この薄さと大きさは、はじめて数を扱う、数字の苦手な子どもたちにも苦手意識を感じさせない工夫である。教科書の中でブロックを操作をしたり書き込みをしたりできるため、これ一冊で入門期の学習を進めることができる。また、教科書とノートの役割の二つを持っているため、机の上がいっぱいにならず操作がしやすい点も良い工夫である。1年生の後半には、ノートづくりの例も掲載されており、細かくステップアップできるところも魅力だ。このノートづくりは、「算数マイノート」として各学年で取り扱われている。このように、思考の過程や深まりをノートに書く習慣を身につけることで、主体的な学びや思考力、判断力の育成につながっていく。</p> <p>また、算数は積み重ねが重要で、学年を重ねるほど難しく感じてしまう子が増える傾向がある。そこで、既習事項を確認していくことは大事になるが、単元のはじめにその確認ができるという点でも東京書籍はしっかりサポートできている。</p>
東京書籍	<p>東京書籍の補充や発展問題は 問題数が多すぎず、問題の難易度がそれほど高くはないため、多くの児童にとって、ほどよく使いやすい。挿絵が見やすいため、問題のイメージをつかみやすく、問題を解きやすい工夫がされている。児童が主体的に学習に取り組んだり、考えたりすることにつながり、基礎基本の定着を図る指導がしやすい内容になっている。</p> <p>また、数学的な見方・考え方を明示し、単に答えをもとめるだけでなく、考え方を意識させたり、他教科とのつながりを持たせ、児童の身近な生活の中にある算数に着目させたりすることで、考える力や情報活用能力を育む工夫がされている。</p>
教育出版	<p>「どんな学習がはじまるかな」という導入部がとても楽しく、子どもたちに苦手意識を感じさせない工夫があり、とても良い。</p>
教育出版	<p>全学年に渡って主体的・対話的で深い学びになるよう、「はてな」「なるほど」「だったら」の表示がされている。単元全体が問いの連続になるよう構成されている。まず、子どもたちが課題に出会ったときに、「はてな」と問いを持ち、その問いに対して、自分なりの考えを持つこと、その考えをもって友だちと対話しながら解決し、解決した後、さらに別の課題だったらどうだろうと少しずつ深い学びに発展するという、算数科にとってとても大切な「考え方」を導く構成となっている。また、「考えるヒント」や、既習事項を確認しながら進める「学びのマップ」が設けられ、未知の問題に出会ったときに自分の力で解決できるような「学び方」を身に付けられるよう工夫されている。「友だちのノートを見てみよう」では、友だちの良さを認め合う場面が設定され、算数科を通して「思いやる心」「他を認める心」といった道徳科との関連を図っているところがとても良い。</p>
共通	<p>算数は積み重ね教科であるので、学びの連続性を意識して、数学的な見方・考え方を焦点化し、スパイラルな学びを進めることが有効である。</p> <p>知識や技能の定着を図るため、各者とも、補充や発展問題を設定している。問題数や問題の難易度にはややばらつきが見られた。</p>
発行者	観点② 分量・装丁・表記等
東京書籍 学校図書 日本文教出版	<p>低学年では、できるだけ荷物を軽くして通学の負担を少なくしたいと考え、分冊の方がよい。東京書籍と日本文教出版は、1年から5年が分冊で6年が一冊、学校図書は全学年分冊となっている。</p>
共通	<p>各者とも構成に関しては工夫されており、大きな差は見られなかった。</p>
共通	<p>東京書籍のように巻末に「おもしろもんだいにチャレンジ」を入れるなど、どの教科用図書も補充問題、発展問題を単元末に取り入れ、充実していた。</p>
発行者	観点③ 本市の児童の実態や地域等の特性との関連
東京書籍	<p>市の調査書にもあるとおり、粘り強く考えられるよう、ヒントが表示されている。また、自分の考えと比較したり、自分の考えたことを確かめたりすることができるよう構成されている。本市の児童に段階を踏んで考える力を育成するのにふさわしいと考える。</p>

第2回令和2年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会
議案第1号「令和2年度使用小学校用教科用図書について」
観点別審議のまとめ

◇理科

◇理科

発行者	観点① 編修の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容・構成、「理科」に係る観点
大日本図書	教科間の接続の視点で見ると、県の調査資料に示されているとおり、生活科と関連した内容に「生活とのつながり」が明記されている。
大日本図書	図版・写真を含めた資料や、科学的思考を深めるプロセスが構築されている。
大日本図書 学校図書 啓林館	小学校で学習したことを、さらに専門性を高めながら繰り返し学習を進めていくという学び方の構造になっているという意味では、中学校への接続について、スムーズに移行できるように単元や分野を工夫している。
教育出版	「せいかつかで学んだこと」が明記されており、これまでの学びと理科とのつながりについて意識できるよう促している。
発行者	観点② 分量・装丁・表記等
大日本図書	実験観察に伴う危険への注意については、朱書きで朱色の枠で囲ってインパクトのある表現になっているため、注目しやすい。注意は繰り返し掲載されているが、何故危険なのかという理由まで書かれているため分かりやすい。導入の写真に学校生活を扱ったものが多く、写真や図版も大きく見やすいので、学習内容に集中できる構成になっている。
教育出版	裏表紙には、どの学年も理科の安全の手引きが掲載されている。重要語には、太字でマーカーが引いてあり、文字も大きく読みやすい装丁となっている。
共通	子どもが自ら考え、自ら解決することができるように構成されている。 3年生は、初めての理科学習であるため、生活科からの繋がりとして、自然の観察からの導入となっている。 写真が多く、視覚的にも分かりやすい構成となっている。 分量・装丁、表記についても、見やすく読みやすいものになっている。
共通	改訂のたびに図や写真が大きく見やすく、きれいで、構成の仕方、巻末付録もいろいろ工夫されている。
発行者	観点③ 本市の児童の実態や地域等の特性との関連
大日本図書 啓林館	6年生の「土地のつくりと変化」の単元で、地震によって土地が隆起した例として、江の島が取り上げられている。江の島は、藤沢の子どもたちにとって、とても身近であり、親しみが持てる教材である。
啓林館	写真の大きさ、美しさ、分かりやすさで子どもたちの目を引くものである。

第2回令和2年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会
議案第1号「令和2年度使用小学校用教科用図書について」
観点別審議のまとめ

◇生活

◇生活

発行者	観点① 編修の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容・構成、「生活」に係る観点
東京書籍	「ポケットずかん」が実物大である。保護者向けのメッセージがあり、一緒に考え、共有できる仕組みがよい。親子で話し合い、新しい発見につながる。3年生以降の理科や社会にもつなげていける。
東京書籍	1年生にとっては、初めての小学校生活を進めていくことを考慮し、幼稚園・保育所などでの学びを終えた幼児期までに育ってほしい子どもの姿が具体的に示されている。保護者が自分の子どもの状況をみとる共通の物差しとして使用できるため、これまでの生活や経験をふりかえり、子どもの実態や課題に気づき、今後の学習に見通しを持つのに役立つ。
東京書籍	2年生の町たんけんページでは、近所のお店から市の施設へと、3年生の社会科につながる視点の広がり方を示唆している。活動範囲の広がりとともに、電車やバスの乗り方についても記述されている。電車やバスでのマナーについて記述してある教科書は多いが、切符の購入方法や運賃の払い方まで具体的に示しているものは少ない。その中で、東京書籍は藤沢市内のバスの乗り方に一番合っており、分かりやすい。電車やバスの乗り方の学習は、本市の推進するモビリティ・マネジメント教育にもつながると考える。
東京書籍 日本文教出版	気持ちの伝え方について扱っているのがよい。あいさつをすること、素直に自分の気持ちを伝えること、相手の話を聞くこと、相手の気持ちを考えることなど、具体的にスキルを示すことで、コミュニケーション力を育むのに役立つ。
東京書籍 大日本図書 啓林館	先の学年につながる基礎的なところを大切に、子どもたちの学びの継続性が考えられている。東京書籍の「ポケットずかん」、大日本図書の「がくしゅうどうぐばこ」、啓林館の「がくしゅうずかん」は、どれも子どもたちの学びを後押しするものである。
共通	今回の学習指導要領の改訂では、就学前との円滑な接続が話題となっており、県の調査研究の結果にもあるように、スタートカリキュラムに特徴が見られた。
共通	情報活用能力の育成について、生活科の学習を通して必要になる習慣や技能、学び方などをまとめた資料ページが各者ともある。
共通	生活科と理科のつながりに着目すると、各者とも飼育、栽培に関連する部分はしっかりと押さえられていた。
発行者	観点② 分量・装丁・表記等
大日本図書	表紙に凸凹感があり、触ってみたいくなる作りである。
学校図書	低学年児童にも視覚的に分かりやすいように、他者に比べて1枚1枚の写真がとても大きい。子どもたちの生き生きとした表情が大きく写されており、写真を見ているだけでわくわくし、活動したくなってくる。魅力的な写真が多いため、子どもたちの活動意欲が高まると考える。
学校図書	お手伝いのことについて、具体例がわかりやすい。
啓林館	お手伝いのことについて「自分や家の人が笑顔になるのはどんなときかな」というところからつなげているのがよい。
発行者	観点③ 本市の児童の実態や地域等の特性との関連
東京書籍 啓林館 日本文教出版	家庭生活に関わる活動についての学習内容が、自分でできることを切り口としている。昨今、家族のかたちやあり方が多様になっているため、取り上げ方に配慮が必要である。本市では、「家族」ではなく、「自分のできること」の視点から学習していくのがよいと考える。
大日本図書 学校図書 教育出版 光村図書出版	家庭生活に関わる活動についての学習内容が、家庭における家族のことを切り口としている。

第2回令和2年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会
議案第1号「令和2年度使用小学校用教科用図書について」
観点別審議のまとめ

◇音楽

◇音楽

発行者	観点① 編修の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容・構成、「音楽」に係る観点
教育出版	大まかに内容を捉えて、音楽の魅力を示している。
教育芸術社	内容について、深く研究を重ねた専門性があり、現場にあった作りになっていると言える。発達に応じた歌唱・器楽・鑑賞のとらえ方、創作においてもスモールステップでわかりやすく、中学校への接続も丁寧に編修している。
共通	児童が音楽に親しむための工夫が随所に見られ、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指している。
発行者	観点② 分量・装丁・表記等
教育出版	各学年の巻頭で日本の歌を取り上げているページがあり、見開き3ページ分になるような大きな写真を掲載している。美しい写真で、曲のイメージを広げるには有効である。
教育芸術社	児童の姿や手元の写真に加え、わかりやすいイラストが使われている。両方あることでより理解が深まる。教材が見開きで完結される作りになっており、全学年コンパクトで持ち運びやすい大きさである。また、紙面は白を基調にしており、歌詞の書かれているページは、背景と文字の色にコントラストを付けており、歌詞の判別がしやすい。
発行者	観点③ 本市の児童の実態や地域等の特性との関連
教育出版	曲作りに重点を置いている。1年でリズムづくり、4年で「話役①②」「支え役」「飾り役」という呼び方で旋律副旋律等役割を意識した曲作り、6年で「動機」を意識した曲作りを行うように設定しており、主体的・協働的な学習を行うことができるが、本市の児童には若干難しく、活動に時間がかかると思われる。
教育芸術社	曲作りに関する活動では、4年で音を限定した中での曲作り、5年で打楽器を使ったリズムづくり、6年で和音の中の音を選ぶ形式の曲作りになっており、演奏する楽しさを味わいながらスモールステップで学習が進み、本市の児童の実態に合っている。 多様な教材を掲載しており、児童の実態に合った教材を選んで主体的な学習を進めることができる。

第2回令和2年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会
議案第1号「令和2年度使用小学校用教科用図書について」
観点別審議のまとめ

◇図工

◇図工

発行者	観点① 編修の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容・構成、「図工」に係る観点
開隆堂	学習のめあての一つにキャラクター「くふうさん」が使われ、形や色の工夫ができるように示されている。児童にとっては親しみやすくわかりやすい。 鑑賞の題材では、見る・聞く・さわるなど、五感を使って形や色を幅広くより身近なものに感じ取らせるよう工夫されている。特に、「絵から聞こえる音」は、聞いて感じた音を形と色で表現するという題材で、鑑賞と表現を相互に関連づけて学べる点もよい。
日本文教出版	5年生で「形が動く 絵が動く」というアニメーションにつながる題材がある。物や人などを動かしてカメラでコマ撮りするというものだが、アニメーションが映像文化として認められ、日本がその第一線にもあるという点を考えると、子どもたちが意欲や関心をもって学び、ICTの学習と関連づけたり、アニメーションの理解につなげたりすることにも広がる良い題材である。
日本文教出版	「ひらめきポケット」は、日常何気なく見ているものを造形的な視点で捉えることで、新たに見えてくる色や形の発見があり、とても興味深い。
共通	子どもたちの創意溢れる作品作りができるような工夫がされている。学校によって差が出やすい造形遊びについては、どちらも楽しくダイナミックな楽しい活動が掲載されている。
共通	造形的な見方・考え方を働かせ、生活の中の形や色と豊かに関わるための趣旨と工夫が多く見られた。
発行者	観点② 分量・装丁・表記等
開隆堂	めあての文言が「～しよう」という児童目線の表記になっており、児童が意識しやすい。 マークに道具の名前が明記されているため、わかりやすい。
共通	各単元ごとに、わかりやすくめあてが表示されており、めあてに沿って活動が広がり深まるように工夫されていた。 全学年に共通するマークを用いて、必要な材料や道具を端的に表したり、刃物などを使用する活動では危険性を知らせるコーナーを工夫したりと、安全に主体的な造形活動を進められるように十分配慮されている。
発行者	観点③ 本市の児童の実態や地域等の特性との関連
開隆堂	「みんなのギャラリー」では、茅ヶ崎アートペイントや横浜美術館の子どものアトリエが掲載されているので、本市の児童は、地域との繋がりをより身近に感じることができる。
日本文教出版	本市の、特に住宅や商店に囲まれたような学校では、敷地が狭く、校庭の木々などが少ないことから、外での活動を行いにくい。日本文教出版の教科書では、外での造形遊びだけでなく、同じ題材目的をもった造形遊びを教室で行う方法を紹介している点が良い。

第2回令和2年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会
議案第1号「令和2年度使用小学校用教科用図書について」
観点別審議のまとめ

◇家庭

◇家庭

発行者	観点① 編修の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容・構成、「家庭」に係る観点
東京書籍	「学習の見直しをもつ」という視点では、県の調査資料「家庭1ページ」に示されているように、学習の流れを3つのステップで示し、主体的に問題解決に取り組む見直しを提示している。 「めあて」と「ふりかえろう」を明記し、児童が確かめながら学習を進められるように促している。 今回の学習指導要領の改訂で新設された「家族・家庭生活についての課題と実践」について、「生活を変えるチャンス！」として、実践をレポートや新聞などにまとめる例を提示している。
開隆堂	県の調査資料「家庭2ページ」に示されているように、それぞれの題材の問題解決のプロセスに沿って3つの小題材で構成し、主体的に問題解決に取り組む見直しを提示している。 キャラクターがつぶやく吹き出しで、生活の見方・考え方の中で重視する視点を示し、学習に見直しをもてるよう促している。 今回の学習指導要領の改訂で新設された「家族・家庭生活についての課題と実践」について、「生活の課題と実践」として複数の課題が掲載されており、児童が選んで実践できるように設定されている。
共通	写真やイラスト、図などをふんだんに用いて、児童の理解を促す働きかけをしている。 実習で気を付ける内容を、「安全マーク」で強調しているため、安全に意識を向けられる。
発行者	観点② 分量・装丁・表記等
東京書籍	A4判で大きいため、実技の実物大の写真巻末に載せており、わかりやすいつくりとなっている。関連する内容にはマークを付けたり、5年生と6年生の最後にまとめのページを設定して学年間・中学校への接続がスムーズになるよう配慮されている。児童は中学校の学習への期待が高まり、教員にとっても中学校の学習との連携が意識できるつくりになっている。
開隆堂	AB判でコンパクトである。調理や裁縫など実技・道具が多い教科であるため、AB判は学習の実態に合うサイズであると感じられる。市の調査資料にも記載されているように、2年間をまとめてふりかえり、中学校への学習につなげるページが設定されている。児童は中学校の学習への期待が高まり、教員にとっても中学校の学習との連携が意識できるつくりになっている。
発行者	観点③ 本市の児童の実態や地域等の特性との関連
東京書籍	多様な家族形態がある中で、家族との関わりだけでなく、地域の人々との関わりを広げ深めていく工夫がある。 高齢者や小さな子どもなど異世代の人々との交流や、東日本大震災で被災した児童の取り組みの掲載は、本市の児童が具体的なイメージをもち、これからの生活の中で、地域の一員としてできることを考え深めていくことができる。
開隆堂	日本各地に伝わる味噌やおやつ、雑煮などが写真で一覧掲載しており、地域の特徴や違いがわかりやすいと思われる。関東風雑煮や神奈川県「へらへらだんご」など、本市の児童にとって身近な地域の文化にふれることができる。 キャリア教育の視点で、フィギュアスケートの羽生選手や宇野選手の衣装製作に関わる人の紹介をしている。児童は、あこがれや親しみをもち、将来の仕事や生き方に関心が広まっていくと思われる。
共通	「伝統マーク」を用い、日本の生活文化に関する内容を取り上げている。 キャリア教育の視点での掲載があり、学習した基礎技能が仕事に繋がっている事例があげられている。

第2回令和2年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会
議案第1号「令和2年度使用小学校用教科用図書について」
観点別審議のまとめ

◇保健

◇保健

発行者	観点① 編修の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容・構成、「保健」に係る観点
光文書院 学研教育みらい	1時間の流れがはっきりしており、その中で子どもたちが考えを書き込むことができる作りになっている。イラストを多く用いたり、決まったレイアウトにしたり、子どもたちが学びやすくなる工夫がなされている。内容も、いじめや心の問題、がん教育、飲酒、たばこ、薬物乱用防止など、今日的な課題にしっかりと向き合っていると感じた。
光文書院 学研教育みらい	たばこ、飲酒、薬物の体への影響が、実際の写真を使って示されている。保護者の視点として、子どもたちに「これはやっちゃいけない、ダメなんだよ、体に悪いんだよ」と伝えるより、実際にこうなってしまうんだという事について、目で見てわかるインパクトが強い写真の方が、よくわかるのではないかと。薬物、たばこ、飲酒の影響が自分の体だけでなく、これから先の新しい命への影響にもつなげられている点が良い。
文教社 学研教育みらい	文教社は、1ページを使い、熱中症になりやすい環境や危険信号、フローチャートによる手当の方法、予防までを詳しく解説している。学研教育みらいは、他の者が記載している予防方法や手当だけでなく、どのようなときに熱中症になるのかを最初に提示している。両者は、熱中症の危険について、単に予防だけでなく、児童自らが考え判断する材料も提示している点で工夫されている。
共通	どの教科書も指導要領に準じた編成でよくまとめられている。
共通	保健の「生涯にわたって心身の健康を保持増進する態度を養う」という観点から、学校生活の中で配慮している熱中症についてはどの者も扱っているが、扱い方に違いがある。
発行者	観点② 分量・装丁・表記等
光文書院 学研教育みらい	構成の面から、光文書院は巻頭でオリンピック・パラリンピック選手のメッセージを載せている。児童にこれから始まる学習への興味・関心を引き出す工夫がある。また、単元の扉では4コマ漫画で学習内容をストーリー形式で示している。何のために何をどのように学ぶかがわかりやすく理解できる。 学研教育みらいは、1単位時間を見開き2ページで扱っている。学習の流れがわかりやすく、児童も学習に、入りやすい。「つかむ」「考える・調べる」「まとめる・深める」の構成で学習を進められるようになっており、見直しを持って学習が進められる。市の調査資料にも同様の事が書かれている。また、「友達と」マークや「共有」マークを配置している。自らの生活を振り返りチェックをする活動を設けたり、「かがくの目」「もっと知りたい・調べたい」という項目を設定されていたりしており、児童が親しみやすく主体的に取り組める工夫が随所に見られた。
発行者	観点③ 本市の児童の実態や地域等の特性との関連
学研教育みらい	登場人物に男女のスクールカウンセラーが入っており、スクールカウンセラーの言葉を吹き出しで紹介するなどしている。本市では、全小学校にスクールカウンセラーが派遣されており、身近な相談相手として子どもたちにも浸透してきている実態に合っている。
共通	市内小学校の実態から、各者の「心の健康」、特に、児童が困ったり悩んだりした時にどうすればよいか、相談相手としてどのような人々を示しているかという視点から見ると、各者共通して、相談相手には家族・友だち・先生を、また、外部の相談機関の電話番号等を紹介している。

第2回令和2年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会
議案第1号「令和2年度使用小学校用教科用図書について」
観点別審議のまとめ

◇英語

◇英語

発行者	観点① 編修の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容・構成、「英語」に係る観点
東京書籍	別冊を使うなどいろいろ工夫があり、英語に親しみ、英語をツールとして活用できるようになっている。
東京書籍	英語を使ってコミュニケーションをとる時には、まずは自分を知る、国を知ることが伝えたいことにつながると感じた。「言葉探検」というコーナーが印象に残り、自分を中心に家族の英語表現や、ローマ字と英語の違いが載っているなど、「なるほど」と思うことが東京書籍には多かった。
東京書籍 光村図書出版	<p>小学校の段階で最も重要なことは、「英語の音声や文字に慣れ親しむこと」、そして「英語を使うのを楽しむ姿勢を身につけること」だと考えている。実用的な英語運用能力を身につけさせるためには、まず、授業の中で、目的をもって実際に英語を使う必然性のある場面や状況をきちんと設定する必要があり、英語で伝え合える喜びを実感させることが大切である。そうすることにより、授業以外でも英語を使ってみたい、自らもつと学んでみたいという意欲をもたせることができる。その点において、東京書籍と光村図書出版は、うまく構成されている。</p> <p>2年間の教科書のレッスンの構成について、習得させたい表現や文法があまり脈絡なく配置されているよりも、自分のこと、身の回りのこと、地域のこと、日本のこと、世界のこと、そして、未来のこと、という流れで並んでいることで、実際に英語を使えるようになっていく自分や、広がっていく世界をイメージしやすい。</p> <p>東京書籍は5年生のはじめに、英語を使って自分がどうなりたいたいのかを書かせるところがあり、2年間で段階を追って、常に英語を使用する場面や目的をはっきり意識させ、表現させている点が優れている。Picture Dictionaryという別冊があり、語彙と基本文型がまとまった別冊は、英語の基礎の習得や表現活動の虎の巻として、大変有効である。児童にとってはもちろん、教員にも使いやすいのではないと思う。二次元コードを用いて、スマートフォンやタブレットなどで音声や映像が繰り返し視聴できる工夫についても、外国語の習得という観点から見ると、児童が興味をもって何度も繰り返し英語に触れることは、大変効果的であり、必要なことである。その点でも、東京書籍と光村図書出版は充実している。</p> <p>東京書籍は、音声だけでなく、教科書の絵に似た人物が登場する実写映像などがあり、内容が優れている。光村図書出版も充実しているが、練習問題のような部分も開けてしまうため、授業の中で扱いたい部分を、既に自宅で取り組んでいっている児童と、そうでない児童との差異が生じてしまう恐れがある。</p>
光村図書出版	市の調査資料にも示されたように、スモールステップで進み、基礎・基本の定着も意図し、英語学習の観点に沿った学びの構成である。初期の英語学習で、自分のことから表現できることを徐々に広げていくという流れは、とても自然で、親しみやすい活用場面が想定されている。物語が多く取り入れられ、「おむすびころりん」の英語版も入っている。物語を通して、ある程度量のある英語に触れることはよいことで、特に、親しみのある日本の昔話は理解しやすいため、英語の理解に自信をもって楽しく学習をすすめる。721語の英単語が扱われているが、単語の選定に工夫している点が評価できる。中学校以降で学習する単語に、生活語彙が少ないことが表現力の伸長に影響しているとの考えもあるため、語彙の選定は重要である。また、絵辞典のかたちで、日本語を介さずに、単語を理解させたり、使用場面を与えて、単語の使い方を分かりやすく示しているため、的確に理解し、表現力を育むのに役立つ。
光村図書出版	スマイル、アイコンタクト、クリアボイス、レスポンスという「4つのたいせつ」が挙げられている。英語を話すときに、恥ずかしいことではなく、大切なことだと思う。
三省堂 光村図書出版 啓林館	教科書を見た時の保護者の目線を意識し、外国語を小学校5年生から学ぶというスタート地点の意味づけから、啓林館と光村図書出版、三省堂については、英語を使うと世界観が広がるというところが教科書の冒頭部分に見えるビジュアルが使われており、そのストーリーから英語を学ぶ意味がわかりやすい。
啓林館	随所にワークシートが設定され、自分の考えに合う語句を選びながら、例文を見て直接書き込めるようになっている。文字で書くことに慣れていない子どもたちにとって、考えたことをすぐに書ける構成は取り組みやすく、基本的な表現や語彙、文字を書くことに無理なく進めるのではないかと。
啓林館	大きさが小さいサイズであるが、広げた時や触った時、めくった時に一番なじみやすく、扱いやすい教科書だと感じた。最初のユニットの導入が見開きで一つの絵になっており、イラストから一つのコミュニケーションが生まれるような工夫が見られた。巻末に文字を書いたり書き込めるスペースがあり、そのステップがとても緩やかで苦手意識をなくせそうである。中学校に入るときに、苦手ではなくとても楽しいものだと思って、進めていける授業にしてほしい。二次元コードによって音声がかけて、家に帰ってきてから一緒に確認できたりするのはいいことだと思う。
開隆堂 三省堂	開隆堂、三省堂については、中学校の英語の教科書で培ってきた内容の濃さが生かされており、何を学ぶかを踏まえて小学校での導入教材を構成している。
学校図書	巻末の単語リストやWord Corner で、名詞や前置詞の使い方など日本語にはない英語の特徴をしっかりと押さえ、自然なかたちで、示すように工夫されており、とてもよい。また、繰り返しを意識し、文字指導などを丁寧に行っている点や、歌、話など多様で意味のある活動がたくさん用意されている点も魅力がある。

◇英語

教育出版	国語の教科書に出てきた内容が扱われ、例えば、「手紙」とか「大きなかぶ」とか英語版になっているものを読んだ時に、最初に物語がわかっているため、何となく英語が入ってくるという感覚がある。
共通	外国語の目標は、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することである。3・4年生での外国語活動の学習から教科としての外国語・英語への円滑な接続に向けて、全者それぞれ工夫があった。現行のWe Canを意識した内容や構成になっているものや、15分程度の短時間の学習活動に対応できる活動が多いとも感じた。
共通	二次元コードを実際に使いながら発音した。今の時代だからこそ上手く活用していきたい。家庭によっては利用できないのではないかという心配もあるが、タブレットが使用できる機会を学校としても保障しつつ、図書館や公的な機関でも活用できるようにしていくと、児童にとっての環境は良い方向になると思う。全者二次元コードを採用しているので大変効果的である。
共通	冒頭に1年間で学習することが見やすい一覧となっているため、子どもたちが主体的に学習を進める中で、振り返ったり、確かめたりする際に、活用できる作りになっている。
共通	各者とも、小学校学習指導要領改訂の要点を踏まえ、英語の4技能5領域について、目標が達せられるように、よく構成されていた。実際のコミュニケーションにおいて活用できる英語の基礎的な技能を、児童が楽しみながら身につけられるように、様々な活動やそれらに伴う巻末のカードやシートなども、使いやすく工夫されている。
発行者	観点② 分量・装丁・表記等
東京書籍	A4判で写真やイラストが大きく、学習のめあても日本語で明記されている。
教育出版	イラストや写真で始まって、少しずつ文字に触れる流れが示されている。
発行者	観点③ 本市の児童の実態や地域等の特性との関連
啓林館	横浜ベイブリッジが取り上げられている。横浜ベイブリッジは本市の児童にとって、色々な時に利用する場所であり、大変親しみやすく、英語というところで意欲を高める内容である。

◇道徳

発行者	観点① 編修の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容・構成、「道徳」に係る観点
光村図書出版	発展的な学習を意識した様々な活動が紹介されており、幅広い思考や活動ができると思う。
教育出版 光村図書出版	光村図書出版の「つなげよう」と教育出版の「深めよう」は、その教材について考えるだけでなく、授業が終わった後も自ら考え行動していくよう示唆しており良い。
東京書籍 教育出版 光村図書出版	同学年に全者が掲載している教材である1年生の「カボチャのつる」については、教育出版や東京書籍が、絵と吹き出しで物語を展開させ、漫画や紙芝居風のつくりになっているため、文章を読むことが難しい1年生にも抵抗なく読むことが出来る。教育出版は、この教材で何を学んだのかを話し合わせる部分もある。光村図書出版は、「カボチャのつる」だけでなく、全学年を通して長く親しまれてきた「定番」の教材を多く取り上げている。どの教材にも「考えよう・話し合おう」の欄を設け、その教材で学ぶべき目当てや問いがしっかり記載されている。考える柱を明確にすることで話し合いがぶれずに、道徳的価値を見だしやすい。また、「つなげよう」という欄もあり、授業で学んだことを実際の生活の中で生かせるように導いている点が良い。
東京書籍	目次とは別に「1年間で学ぶこと」のページを設け、4つの視点と内容項目別に教材を分類しテーマが明確になっている。これにより保護者も自分の子どもが教科書の教材を通してどのような道徳性を養うことができるのかということを目で確認でき、わかりやすい。
共通	教材の前や後にその時間に考えてほしいことについて記してある。
共通	各教材における内容項目の分類について、どの者も記号や色分けをするなど、工夫がされている。
発行者	観点② 分量・装丁・表記等
光村図書出版	各教科において、考えるポイントがはっきりするよう、原作にある不要な説明や、現代に合わない言い回しを極力省く工夫が見られる。これにより教材の文章量ががらよどよくなり、本文の読解が中心となることがなくなる。その他、全学年に渡って優しい雰囲気や挿絵と美しく大きな写真が掲載されている。これらは、教材への興味・関心を抱かせるとともに肯定的に入り込む助けになる。
光村図書出版	キャラクターからの児童自身への問いかけの形でテーマを投げかけている。また、6年間を通じて、巻頭に「みんな生きている みんなで生きている」というテーマで挿絵と言葉を載せており、テーマに関連する文章は発達段階に応じて変わっている。また、道徳の授業の意味や「話し合って、演じて、読んで、書いて、考えよう」という学び方をわかりやすく示していたりする点も優れている。さらに、二次元コードを用いて、朗読を聞けるデジタルコンテンツも利用価値がある。
光村図書出版	学習に入る前に、キャラクターがさりげなく考えて欲しいことを呼びかけているところや、決して価値観の押し付けではなく、教材に入る前に、児童自身が「自分ならどう考えるだろうか」と自分自身のこととして問題意識を持たせるような呼びかけをしているところが、有効である。また、教材の最後には、理解をさらに深めるための問いとして、「考えよう・話し合おう」「つなげよう」が設けられている。教材によっては、教材文の途中に「問い」が設けられており、児童が教材を通して主体的に取り組み、理解が深まるような構成になっている。また、全体的に、優しい色合いと柔らかなイラストでまとめられ、落ち着いた気持ちで学習活動が進められる。
光村図書出版	「演じて考えよう」では、演じることでその時にどんな気持ちになったか、また、自分の思いと異なる発言をしなくてはならない場面がある等、自分の体で実感できるのは良い。
光村図書出版 光文書院 学研教育みらい	各単元の最初に書かれている表現について、複数者の教科書で、それぞれのタイトルの前に、その単元が求める道徳的価値観がそのまま書かれているものがある。例えば、「相手の立場に立って親切に」とか「時と場をわきまえ、真心をもって」などという表現である。それらは、これから触れる教材が求める結論のようなものになる。児童はあらかじめ「そういうことを求められている」と感じて、教材を読み進めていく可能性がある。タイトルに添えてある言葉は、「問いかけ」のようなものだったり、特に何もなかったりする方が、児童の道徳的葛藤を生むには効果的であると考え、光村図書出版、光文書院、学研教育みらいの3者は評価できる。
東京書籍	挿絵を多用せず、必要事項を簡単な文章で記しているため、すっきりしていて、わかりやすい。
光文書院	冒頭に1年間で学習することが見やすい一覧となっているため、子どもたちが主体的に学習を進める中で、振り返ったり、確かめたりする際に、活用できる作りになっている。
学研教育みらい	教材を「私のこと」「あなたと私」「社会と私」「命や自然と私」の4つにシンプルに分け、道徳的価値観を直接記すことなく、児童に感じ、考えさせる工夫がある。6年間を通じて、毎年、巻頭に「今の私」について書き込むコーナーがある。
学校図書 日本文教出版 廣済堂あかつき	別冊の道徳ノートがある。ツールが決まっているということは、教えることや、どの先生にも比較的近い水準が保たれる。一方、指導することが誘導されやすい。極めて表裏一体の部分がある。ツールが整っていた方が、同じものをどこで受けても受けやすいところに利点を感じたが、子どもたちの視点が広がるという視点も必要だと感じた。
共通	学習指導要領の求める「考え、議論する道徳」の授業の実現のために、発達段階に応じてさまざまな工夫がなされ、甲乙つけがたい仕上がりになっている。
共通	タイトル・題名の導入部分を見て、テーマに対する価値観やイメージを特別なものにしないう工夫がされている教科書は、子どもたちが発言しやすく、色々な意見が出る中で、自分と違う意見があったとしても、「そのような考え方もあるのだな」と素直に受け止められる。「一人ひとり違うんだよ」と色々な価値観の気づきにつながり、答えに導いていくものではなく、様々な意見を自由に出せるような授業になる。
発行者	観点③ 本市の児童の実態や地域等の特性との関連
光村図書出版	杉原千畝氏に関する扱いについては、人道的な行為だけでなく、阪神淡路大震災の出来事に加え、社会・歴史、現代との結びつきを持たせた教材になっているのがよい。
共通	市内を走る「江ノ電」に関する資料が1者(東京書籍)、東京五輪・ヨット、キエル兄弟、などオリンピック・パラリンピック関連の題材の扱いは全者、杉原千畝が4者(教育出版、光村図書出版、光文書院、日本文教出版)で扱われている。オリンピック・パラリンピックの資料は、内容項目は様々で幅広く設定されている。本市内に一時期自宅があった杉原氏の資料は、主に人権や国際理解で扱われている。本市との関わりがある資料を取り上げることで、児童が身近なことと感じたり、深く考えたりして、道徳性を養ってほしいと考える。

令和2年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会の審議方針について

本審議委員会は、教育委員会の諮問に基づき、令和2年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会の方針を次のように定める。藤沢市立小学校・中学校・特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級で使用する教科用図書について、次の観点に基づいて審議を行い、その内容を教育長に答申する。

1 基本的な考え方

- (1) 「令和2年度使用藤沢市教科用図書の採択方針」に基づき審議する。
- (2) 令和2年度使用小学校用教科用図書の調査研究を学習指導要領に基づいて行わせるために、調査員を置き、調査資料を提出させる。
- (3) 令和2年度使用中学校用教科用図書の選定に係る調査研究資料は、平成27年度採択における県・市の調査研究資料等を活用する。
- (4) 「平成32年度使用小学校、義務教育学校の前期課程教科用図書調査研究の観点」、平成32年度使用中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程教科用図書調査研究の観点」及び「平成32年度使用特別支援教育関係教科用図書調査研究の観点」に基づき、調査研究した資料等を基に審議する。その内容を教育長に答申する。

2 審議委員会日程

(1) 令和2年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会日程

- ア 令和元年6月から7月にかけて令和2年度使用小学校用教科用図書並びに令和2年度使用中学校用教科用図書、また令和2年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書の審議を3回行う。
- イ 第1回は、令和2年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会の審議方針について審議する。
- ウ 第2回は、令和2年度使用小学校用教科用図書について審議する。
- エ 第3回は、令和2年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書の審議並びに、令和2年度使用中学校用教科用図書について審議する。

(2) 調査員作業日程

- ア 令和元年6月中に令和2年度使用小学校用教科用図書の調査研究のために、調査員をおき、作業を行わせる。
- イ 調査員作業では、調査研究方法の確認をし、令和2年度使用小学校用教科用図書見本等を基に調査研究を行わせ、調査資料を作成させる。

3 提出させる資料

- (1) 調査員による調査資料を審議委員会に提出させる。
- (2) 事務局に各小学校長からの令和2年度使用小学校用教科用図書調査書をまとめさせ、審議委員会に提出させる。
- (3) 事務局に該当校長からの特別支援学校及び特別支援学級用教科用図書調査書をまとめさせ、審議委員会に提出させる。
- (4) 事務局に各小学校移動展示時と藤沢市役所本庁舎5階市民ラウンジ展示時の教育関係者、児童生徒保護者並びに市民の意見・感想をまとめさせ、審議委員会に提出させる。
- (5) 教科書目録、学習指導要領、令和2年度使用小学校用教科用図書見本、令和2年度使用中学校用教科用図書見本、教科書編修趣意書、令和2年度義務教育諸学校使用教科用図書の採択方針（「平成32年度使用小学校、義務教育学校の前期課程教科用図書調査研究の観点」、平成32年度使用中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程教科用図書調査研究の観点」及び「平成32年度使用特別支援教育関係教科用図書調査研究の観点」を含む）教科用図書調査研究の結果並びに平成27年度採択における県・市の調査研究資料等を資料として使用する。

4 調査作業の時限非公開

- (1) 静ひつな調査研究の環境確保のため、調査作業及びその調査員氏名については非公開として行わせる。
- (2) 審議の透明性を確保するため、調査員氏名については、調査作業後、審議委員会において公開する。

第1回令和2年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会会議録

令和元年6月3日（月）10時30分～

委員長

定刻になりました。

会議に先立ちまして、お願いがございます。傍聴の皆様方、お手元の藤沢市教科用図書採択審議委員会の傍聴要領をよくご覧になって、各事項を遵守くださいますようお願いいたします。なお、この会議は公開でございます。審議の内容につきましては、議事録作成の都合上、録音させていただきます。

それでは、これより第1回令和2年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会を始めます。

私は、本審議委員会委員長を務めさせていただくことになりました村上と申します。

不慣れではございますが、藤沢市の子どもたちのために、静ひつな環境の中で公正に審議委員会を運営してまいりたいと存じます。審議委員の皆様のお協力をお願いいたします。

また、本審議委員会規則第4条第3項に則り、職務代理者として畠山委員を指名しております。畠山委員、一言御挨拶をお願いします。

畠山委員

皆様、おはようございます。採択審議委員会の委員長より御指名をいただきましたので、務めさせていただきたいと思えます。どうぞよろしくをお願いいたします。

委員長

畠山委員、よろしくをお願いいたします。

それでは、本審議委員会の次第に則って進めさせていただきます。

次第の2「会議録署名委員の指名について」に入ります。「藤沢市審議会等の会議の公開に関する要綱」第7条に基づいて、会議録署名委員の指名をいたします。

署名委員として、委員長の私自身と、他に井上委員を指名させていただきます。井上委員、よろしいでしょうか。

井上委員 はい。わかりました。受け承りました。

委員長 ありがとうございます。それでは、会議録署名委員には、私と井上委員ということでよろしくお願いいたします。

次に、次第3「資料について」に入ります。事務局から資料についての説明をしていただきます。事務局、お願いいたします。

事務局 それでは、たくさんあります資料の確認をさせていただきます。

まず、ホッチキスどめの「資料1」と書かれているものには「藤沢市教科用図書採択審議委員会規則」、「令和2年度使用藤沢市教科用図書の採択方針」、「令和2年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会委員名簿」、「令和2年度使用藤沢市教科用図書に関する審議について（諮問）」、「平成32年度義務教育諸学校使用教科用図書の採択方針について（通知）」、「教科書採択における公正確保の徹底等について（通知）」、「2020年度（新元号2年度）使用教科書の採択事務処理について（通知）」、「小学校用教科書目録（平成32年度使用）登載発行者別一覧表」、「中学校用教科書目録（平成32年度使用）登載発行者別一覧表」、「平成31年度使用藤沢市立中学校用教科用図書」、「平成32年（新元号2年）度用一般図書一覧」をとじております。

次に、A4のピンクのファイルの資料になります。こちらには「中学校用教科用図書調査研究の結果（平成28・29・30・31年度用）」と、「中学校用（平成28・29・30・31年度用）『調査資料』」をとじております。

続きまして、ホッチキスどめの資料3です。こちらには「小

学校用教科書目録（平成32年度使用）」と「中学校用教科書目録（平成32年度使用）」、「特別支援学校用（小・中学部）教科書目録（平成32年度使用）」をとじております。

その他、小・中・特別支援学校の学習指導要領を用意しました。

なお、本日の資料の中で平成32年度となっているものにつきましては、改元前に国や県から示されたもののため、その表記になっておりますが、令和2年度と読みかえていただきますようお願いいたします。

それでは、それぞれについて概略を御説明いたします。

再度お手元の資料をご覧ください。

初めに、資料1の1ページ、藤沢市教科用図書採択審議委員会規則ですが、これは、本審議委員会の規則でございます。

次に、3ページ、令和2年度使用藤沢市教科用図書の採択方針です。これは本年度の教育委員会としての採択に関わる方針を定めた資料でございます。

次に、8ページ、平成32年度義務教育諸学校使用教科用図書の採択方針です。この中に、11ページにあります平成32年度使用小学校、義務教育学校の前期課程教科用図書調査研究の観点、15ページにあります平成32年度使用中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程用教科用図書調査研究の観点、及び20ページにあります平成32年度使用特別支援教育関係教科用図書調査研究の観点が含まれております。これは、文部科学省の通知を受けまして県の選定審議会を通して県教育委員会が通知したもので、教科書の調査研究の観点を示したものでございます。

次に、26ページ、教科書採択における公正確保の徹底等について（通知）と、51ページの2020年度（新元号2年度）使用教科書の採択事務処理について（通知）ですが、これは文部科学省より県に通知されました教科用図書採択に向けての方

針でございます。

次に、58ページの小学校用教科書目録（平成32年度使用）登載発行者別一覧表、続けて、59ページの中学校用教科書目録（平成32年度使用）登載発行者別一覧表、60ページの平成31年度使用藤沢市立中学校用教科用図書ですが、これは事務局が作成した一覧表になります。

次に、61ページ、平成32年（新元号2年）度用一般図書一覧ですが、これは学校教育法附則第9条の規定に基づき、義務教育諸学校で平成31年度に使用する教科書として採択された一般図書のうち比較的採択数の多いもので、かつ、発行者が令和2年度においても引き続き当該図書の発行、供給を予定しているものを収録したものです。

次に、ピンクのファイルになります。資料2にとじております「中学校用教科用図書調査研究の結果（平成28・29・30・31年度用）」と「中学校用（平成28・29・30・31年度用）調査資料」ですが、これは平成27年度に行いました中学校用教科用図書の採択の際、神奈川県及び藤沢市が作成した調査研究資料でございます。

次に、資料3のホッチキスどめになります。こちらには「小学校用教科書目録（平成32年度使用）」、「中学校用教科書目録（平成32年度使用）」、「特別支援学校用（小・中学部）教科書目録（平成32年度使用）」をとじております。教科用図書は、こちら教科書目録に登載されているもののうちから採択するとされています。

最後に、小・中・特別支援学校の学習指導要領ですが、これは学校の教育課程の中心となるもので、文部科学省が作成し、教科書編集の根幹に当たる資料でもあります。審議委員の皆様のお手元に1冊ずつ配付させていただいております。

その他、正面に向けて左のサイドテーブルに資料を用意させていただきました。

まず、教科書編集趣意書ですが、これは文部科学省から作成を指示された教科書発行社が教科書を編集するに当たっての趣意をまとめたものです。その他、令和2年度使用小学校用教科用図書見本本、そして、令和2年度使用中学校用教科用図書見本本及び特別支援教育関係教科用図書見本の一部、最後に、平成28年度使用中学校用教科用図書に関する調査書、意見書、審議結果についてを展示しております。

以上でございます。

委員長 ありがとうございます。

次に、次第4、教育長より審議委員会への諮問です。

教育長 去る5月19日に行われました教育委員会定例会におきまして、令和2年度使用藤沢市教科用図書に関する審議について、貴審議委員会に諮問することが決定いたしましたので、それに基づき諮問いたします。それでは、読み上げます。

2019年（令和元年）6月3日

藤沢市教科用図書採択審議委員会委員長 様

令和2年度使用藤沢市教科用図書に関する審議について（諮問）

藤沢市教育委員会は2019年（令和元年）5月15日の教育委員会会議において「令和2年度使用藤沢市教科用図書の採択方針」を定めました。

教科用図書の採択にあたっては、国、県等の資料を踏まえて公正かつ適正を期し、学校、児童生徒、地域等の特性を考慮して採択することが求められています。

そこで、貴審議委員会においては、「令和２年度使用藤沢市教科用図書採択方針」及び神奈川県教育委員会通知に示されている「平成３２年度使用小学校、義務教育学校の前期課程教科用図書調査研究の観点」、「平成３２年度使用中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程教科用図書調査研究の観点」、「平成３２年度特別支援教育関係教科用図書調査研究の観点」に基づき審議を行い、その内容を答申して下さるよう、ここに諮問します。

藤沢市教育委員会

教育長 平岩 多恵子

以上でございます。よろしくお願いいたします。

委員長

ありがとうございました。

なお、ただいまの諮問文の中で平成３２年度使用となっておりますのは、先ほども説明いたしましたように、改元前に県教育委員会から示されたもののため、この表記になっております。委員の皆様にはこれからの御審議をよろしくお願いいたします。

それでは、次第の５「議事」に入ります。

今年度の審議委員会の方針について、審議の都合上、あらかじめこちらで議案を用意してあります。

それでは、議案、令和２年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会の審議方針（案）について審議いたします。事務局に朗読していただきます。

事務局

それでは、お手元の議案をごらんください。

議案

令和２年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会の審議方針
(案) について

本審議委員会は、教育委員会の諮問に基づき、令和２年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会の方針を次のように定める。藤沢市立小学校・中学校・特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級で使用する教科用図書について、次の観点に基づいて審議を行い、その内容を教育長に答申する。

1 基本的な考え方

- (1) 「令和２年度使用藤沢市教科用図書の採択方針」に基づき審議する。
- (2) 令和２年度使用小学校用教科用図書の調査研究を学習指導要領に基づいて行わせるために、調査員を置き、調査資料を提出させる。
- (3) 令和２年度使用中学校用教科用図書の選定に係る調査研究資料は、平成２７年度採択における県・市の調査研究資料等を活用する。
- (4) 「平成３２年度使用小学校、義務教育学校の前期課程教科用図書調査研究の観点」、「平成３２年度使用中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程教科用図書調査研究の観点」及び「平成３２年度使用特別支援教育関係教科用図書調査研究の観点」に基づき、調査研究した資料等を基に審議する。その内容を教育長に答申する。

2 審議委員会日程

- (1) 令和２年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会日程
 - ア 令和元年６月から７月にかけて令和２年度使用小学校用教科用図書並びに令和２年度使用中学校用教科用図書、また令和２年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書の審議を３回行う。
 - イ 第１回は、令和２年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会の審議

方針について審議する。

ウ 第2回は、令和2年度使用小学校用教科用図書について審議する。

エ 第3回は、令和2年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書の審議並びに、令和2年度使用中学校用教科用図書について審議する。

(2) 調査員作業日程

ア 令和元年6月中に令和2年度使用小学校用教科用図書の調査研究のために、調査員をおき、作業を行わせる。

イ 調査員作業では、調査研究方法の確認をし、令和2年度使用小学校用教科用図書見本等を基に調査研究を行わせ、調査資料を作成させる。

3 提出させる資料

(1) 調査員による調査資料を審議委員会に提出させる。

(2) 事務局に各小学校長からの令和2年度使用小学校用教科用図書調査書をまとめさせ、審議委員会に提出させる。

(3) 事務局に該当校長からの特別支援学校及び特別支援学級用教科用図書調査書をまとめさせ、審議委員会に提出させる。

(4) 事務局に各小学校移動展示時と藤沢市役所本庁舎5階市民ラウンジ展示時の教育関係者、児童生徒保護者並びに市民の意見・感想をまとめさせ、審議委員会に提出させる。

(5) 教科書目録、学習指導要領、令和2年度使用小学校用教科用図書見本、令和2年度使用中学校用教科用図書見本、教科書編修趣意書、令和2年度義務教育諸学校使用教科用図書の採択方針(「平成32年度使用小学校、義務教育学校の前期課程教科用図書調査研究の観点」、「平成32年度使用中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程教科用図書調査研究の観点」及び「平成32年度使用特別支援教育関係教科用図書調査研究の観点」を含む)教科用図書調査研究の結果並びに平成27年度採択における県・市の調査

研究資料等を資料として使用する。

4 調査作業の時限非公開

- (1) 静ひつな調査研究の環境確保のため、調査作業及びその調査員氏名については非公開として行わせる。
- (2) 審議の透明性を確保するため、調査員氏名については、調査作業後、審議委員会において公開する。

なお、令和2年度使用中学校用教科用図書については、4年に1度の採択がえの年に当たっており、「特別の教科 道徳」以外の教科については、教科書目録に登載されているもののうちから採択します。しかし、学習指導要領の改訂に伴い、令和2年度から使用する中学校の教科書については、新たに検定を経た教科書がございませんでした。したがって、平成26年度検定合格図書等の中から採択を行うこととなります。教科書の内容については、平成26年度検定合格図書の時点から現在のもものと基本的に変わりはありません。そのため、文部科学省から調査研究資料については、4年間の使用の実績を踏まえつつ、平成27年度採択における調査研究の内容等を活用することも考えられること、神奈川県教育委員会からは、「中学校用教科用図書調査研究の結果（平成28・29・30・31年度使用）」をもって充てることが示されました。このことを受け、令和2年度使用藤沢市教科用図書の審議には、平成27年度に神奈川県や藤沢市が作成した中学校用教科書の調査研究資料を活用することが示されております。

以上、よろしくお願いいたします。

委員長 ありがとうございます。

この議案につきまして、御意見、御質問がございましたらお願いいたします。方針文が長いので、一つ一つ分けていきたい

と思います。

まず、前文及び「1 基本的な考え方」についてまでは、いかがでしょうか。

各委員 なし。

委員長 ないようでしたら、次に、「2 審議委員会日程」についてはいかがでしょうか。

各委員 なし。

委員長 それでは、次は、「3 提出させる資料」についてです。こちらはいかがでしょうか。

各委員 なし。

委員長 では、次に、「4 調査作業の時限非公開」についてはいかがでしょうか。

各委員 なし。

委員長 御意見、御質問がないようでしたら、原案どおりということによろしいでしょうか。

各委員 はい。

委員長 それでは、全体を通して、ほかに御質問、御意見はございませんでしょうか。

各委員 なし。

委員長 では、ないようですので、この方針でよろしいかどうか、改めまして御承認いただけますでしょうか。

各委員 はい。

委員長 ありがとうございました。それでは、議案、令和2年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会の審議方針（案）については承認されました。したがいまして、案の字をお取りください。

 ありがとうございます。実質審議を第2回審議委員会にて行います。各委員におかれましては、本日の資料を参考に次回の審議委員会までの準備をよろしくお願いします。

 最後に、第2回審議委員会の開催日時ですが、7月3日水曜日午前9時から、藤沢市教育文化センター大会議室でと考えております。この日程でよろしいでしょうか。

各委員 はい。

委員長 それでは、方針に従いまして、次回は、令和2年度使用小学校教科用図書の審議を行ってまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

 事務局のほうから何か連絡はありませんでしょうか。

事務局 御審議ありがとうございました。

 審議委員の皆様には、審議における公正確保という観点において、常に公正な立場でお願いいたします。

 以上でございます。ありがとうございました。

 委員の皆様、事務局の皆様、ありがとうございました。

 これをもちまして第1回令和2年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会を閉会いたします。ありがとうございました。

この会議の結果の記載に相違ないことを、確認する。

署名委員

第2回令和2年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会会議録

令和元年7月3日（水）9時00分～

委員長 皆様、おはようございます。本日は、お忙しい中ご出席いただきまして、まことにありがとうございます。

会議の開会に先立ちまして、傍聴の皆様にお願いがございます。お手元の傍聴要領をご覧ください。藤沢市教科用図書採択審議委員会の傍聴要領に従い傍聴くださいますようお願いいたします。

なお、この会議は公開であるとともに、審議の内容につきましては会議録作成の都合上、録音をさせていただきます。

また、本日、山田委員、小林委員につきましては、都合により遅れて委員会に出席する旨、承っておりますのでお知らせいたします。

それでは、本日の次第をご覧ください。今回ご審議いただく内容は、議題、「令和2年度使用小学校用教科図書について」です。

まずはじめに、藤沢市審議会等の会議の公開に関する要綱に基づき、会議録署名委員を指名します。

委員長の私の他に今回も、井上委員をお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

井上委員 はい、承知いたしました。

委員長 ありがとうございます。では、井上委員、よろしく申し上げます。

続いて、本日の資料について事務局の説明を求めます。事務局、お願いいたします。

事務局

それでは、議題に係る資料について説明いたします。

第1回の審議委員会が終了した後、本日までの間に送付し、本日お持ちいただきました4点の資料についてご説明いたします。

1点目は、本審議委員会のもとに置かれました調査委員によって作成されました「小学校用（令和2・3・4・5年度用）『調査資料』」です。これは、県の通知及び本審議委員会の方針を受けまして、学校教育に関し十分な経験と知識を有する者のうちから本市教育委員会が調査員として57名を任命し、調査研究した結果をまとめたものでございます。今回、調査研究に携わりました調査員の氏名等につきましては、調査資料の最終ページに記載してございます。

2点目は、県より報告されました「小学校、義務教育学校の前期課程 教科用図書調査研究の結果（令和2・3・4・5年度使用）」です。これは、県の選定審議会のもとに置かれた専門調査委員会が調査研究した結果でありまして、選定審議会を経まして県教育委員会から本市教育委員会へと送付されたものでございます。

3点目は、「令和2年度使用教科用図書調査書まとめ」です。これは、各小学校長が自校の教師に県の調査研究の観点等に沿って調査研究させた令和2年度使用教科用図書調査書をもとに事務局でまとめたものです。各学校が調査の各観点に沿って、当てはまると思われる発行者に丸をつけたものを集計し一覧にしたものと、各教科、種目別の観点、及び本校の児童の実態や地域等の特性との関連の観点について、その教科書が適切である理由として各学校が記述した内容を発行者ごとにまとめ、一覧にしたものです。

4点目は、「令和2年度使用教科用図書意見書一覧表」です。これは、市民及び保護者向けに各小学校及び藤沢市役所本庁舎5階市民ラウンジにおいて教科書展示会を開催した際にいた

いた意見、感想を事務局でまとめたものでございます。なお、令和2年度使用教科用図書調査書と令和2年度使用教科用図書意見書は、令和2年度に藤沢市で使用が予定される教科用図書見本本とあわせてサイドテーブルに展示してあります。

委員長 ありがとうございます。
 ただいまの資料等の説明について、何か質問はございますか。

各委員 なし。

委員長 では、質問がないようですので、これから議事に入ります。
 議題、「令和2年度使用小学校用教科用図書について」を審議してまいります。

今年度は、令和2年度から令和5年度に使用する小学校の教科用図書の採択が行われることになっています。また、審議委員会が審議を行うにあたり、学校教育に関し十分な知識と経験を有する調査員を置き、調査研究を行わせました。本日までに、審議委員の皆さんには調査員が作成した調査資料に目を通し、調査研究を進めていただいているところですが、その調査資料の内容をもとに、各小学校の調査書のまとめ、県より出された教科用図書調査研究の結果等を使って審議を進めたいと思います。

続きまして、審議の進行につきまして、何かご意見がございましたでしょうか。

古島委員 審議の進め方についてですが、こちらの市の調査資料の大きなまとめの3つの観点をもとに進めていくというのはいかがでしょうか。

委員長 ありがとうございます。ただいま、市の調査資料の3つの観

点をもとにしてという意見がございました。市の調査資料の3つの観点といたしましては、1つ目の観点が「編修の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容・構成、教科・種目別の観点」です。2つ目の観点は「分量・装丁・表記等」です。最後に3つ目の観点は「本市の児童の実態や地域等の特性との関連」となります。これら3つの観点のもとに進めてはどうかというご意見だったと思います。皆さん、いかがでしょうか。

各委員 はい。

各委員 お願いします。

委員長 ありがとうございます。それでは、種目ごとに3観点を踏まえて、各委員からご意見をこれからいただいでいきたいと思えます。

それでは、ご意見をお願いします。まずは国語からお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。それでは、三橋委員。

三橋委員 国語ですけれども、4者、教科書が出ているんですけれども、4者とも、主体的・対話的で深い学びとなるように子どもたちが見通しを持って学習できるように、それぞれ工夫されています。その中で、学習の進めやすさという点で、光村図書出版と教育出版の教科書について話をしたいと思えます。

どちらも題材の後の学習の手引きが充実しています。学習の手順を追ってわかりやすく記述しているので、子ども自身が学習を進める上での羅針盤として活用できると考えます。

その2者を比べますと、光村図書出版は、県の調査資料に、「対話的な学びの場面を具体的に提示したりしている」と記されているとおり、1つ1つの発問が具体的で答えやすいと思えました。

また、単元と関連した図書の紹介数も多く、読書活動を意識した単元づくりがどの単元でもされていると感じました。

委員長 ありがとうございました。他にご意見はございますでしょうか。では、長田委員。

長田委員 私も光村図書出版はよいと思いました。「心を、動かす。言葉が、動かす。」という方針のもと、確かな国語の力を育む工夫がされていると感じました。どの学年の児童にとっても本物に触れる質の高い題材が選択されていると感じます。市の調査委員からも活動に役立つ情報が多く、扱いやすいと報告があります。

 また、教育出版についてもめあてやねらいが明確に示されていて、児童の学習の道しるべとして有効であると感じました。

委員長 ありがとうございました。他にいかがでしょうか。田中委員、お願いします。

田中委員 まず、自分が子どものころに読んだ教科書の内容がまだ今も載っていて、うれしさと懐かしさを感じました。4者読んだのですが、特に、教育出版について意見させていただきたいと思います。それぞれの学びの下のほうに、自分がどう思ったか、友達はどう思ったかと、自然な形で意見を伝え合える場面が載っておりました。友達の話を聞くことは、自分も話すことにつながりますし、話すことは聞く力にもつながると思っています。友達の意見を聞いて自分の考え方を見つめ直す機会もありますし、共感するということはとても大事だと思いましたので、いいなと思いました。

委員長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。志水委員。

志水委員 私は、伝統や文化に関する教育の充実ですとか、あるいは語

彙を豊かにするという国語科の観点から見てみましたけれども、4者見てみまして、光村図書出版が工夫されていると思いました。光村図書出版の2年生以上にある「季節の言葉」という、春夏秋冬、年間で4カ所のページなんですけれども、2、3年生は挿絵とし、4年生は1年間の季節の行事、5年生は古典、6年生は二十四節気からというように、児童の発達段階に合わせて多くの言葉を選んでいきます。

さらに、「短歌や俳句をつくってみよう」などというように、その言葉を使った活動を示しておりまして、年間を通して語彙を豊かにして、そして伝統文化に親しめるというつくりになっていると思いました。

また、分量・装丁・表記等の観点から4者を見てみたのですが、学校図書と教育出版は全学年上下の分冊になっています。軽量化されて持ち運びの負担は少ないつくりになっています。一方、光村図書出版と東京書籍は、1年生から4年生は分冊ですけれども、5、6年生は年間で1冊です。年間1冊ということは、重みはあるんですけれども、高学年になったなどか、中学校へのつながりという点では、特に、また学習の積み重ねが意識できる、そういったところではいいかなと思いました。

中でも光村図書出版は、冒頭に1年間で学習することが見やすい一覧表となっておりまして、子どもたちが主体的に学習を進める中で振り返ったり確かめたり、そんな活用もできるつくりになっていると思いました。

委員長 ありがとうございました。他にいかがでしょうか。それでは、山田委員、お願いします。

山田委員 私も国語に関しては、教科書を実際に開いたときに、保護者の目線としてどういうことを習っている状況になっているのか、どういう方向性で進んでいるのかが見えていくところが家

庭学習とのリンクにつながっていくのかなという観点と、あと、小学校4年生で都道府県の漢字が出てきますので、そこがどのように載っているのかという観点で見させていただきました。

光村図書出版の場合、私も子どものころから親しみのある教科書なんですけど、小学校1年生と6年生に表彰状が載ってあったりして、結構子どもたちにとって親しみやすい教科書になっているのかなという印象になっているのがまず1点です。

都道府県の部分に関しては、光村図書出版の場合は2分割で掲載がなされているんですけども、他の部分は2ページにわたって1ページに載っているという感じなので、どちらが先生方として使いやすいのかなというのをイメージした感じですか。ここは一長一短あると思います。

委員長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。それでは、中川委員、お願いします。

中川委員 私は、学習指導要領の改訂の要点を踏まえた点からお話したいと思います。私も教育出版と光村図書出版についてお話しします。

教育出版では、学習の課題を「確かめよう、考えよう、深めよう、広げよう」の4つのステップを示すことにより、児童が順を追って主体的に学習に取り組めるように学習の流れを工夫していると思います。自分の考えや情報を伝達するための教材として、さまざまな媒体を効果的に活用する題材が設定されていて、子どもたちが取り組みやすいのではないかと考えます。

一方、光村図書出版においても、題材ごとに学習の進め方がはっきりと示されています。児童が見通しを持ち、主体的に学習に取り組むことができる構成になっています。どの学年においても文学的文章や説明的文章は読みごたえのある題材を設定しています。文学的文章は、生命尊重や人間の尊さを主題にし

ていて、児童が国語に関心を持ち、興味を持って主体的に読み進めることができると思います。

例えば、6年生のはじめに取り上げる物語、「帰り道」は、思春期の入口を迎えた多感な児童が内容に共感しながら読み進めることができ、個人の価値を尊重する態度を養っている題材であると思います。

また、それぞれの題材では写真や挿絵を効果的に配置し、対応させて読んだり、表などを活用して考えを形成したり、まとめたりすることができるようになっていきます。

先ほど、田中委員や山田委員も触れていましたけれども、光村図書出版では、「くじらぐも」「スイミー」「お手紙」「白いぼうし」「ごんぎつね」「大造じいさんとガン」「やまなし」「海の命」など、親の代から長い間読み続けられている物語も多く、親子で同じ作品を共有し、家庭学習でも話題にしていることは、教科書を閲覧した藤沢市の保護者の多くが感想として持っていることと思います。

委員長 ありがとうございました。他にいかがでしょうか。和智委員。

和智委員 私の方からは、教科書の編修の工夫と、本市の児童との関連の2点についてお話ししたいと思います。

まず、教科書の編修の工夫という観点ですけれども、東京書籍の1年生の巻頭には、「とんとんとん」という単元があります。大きな挿絵にインパクトがあり、短い言葉とともに子どもがわくわくするような紙面が続きます。明るく楽しいイメージを持って国語の学習をスタートすることができるのではないかなと思いました。

また、光村図書出版の1年生の巻頭は、絵だけで何ページか進み、9ページ目に詩が登場するという構成になっていて、こちらからはじめて国語という学習に出会う子どもの関心を高め、

期待を膨らませる効果は大変大きいと思いました。

さらに、今度は高学年の方でお話ししますと、小学校での学習のまとめとして、話す、聞くの単元を工夫して、今の自分、これからの自分を見つめる機会が設定できるとよいと思っておりますが、東京書籍では、6年生で「町の幸福論」という単元があります。また、光村図書出版では、「私たちにできること」「今、私は、ぼくは」という単元があり、どちらも自分や地域を見つめて考えをまとめることに適していると思われま

す。また、本市の児童との関連という観点からお話ししますと、本市では中学校での平和学習に力を入れており、最近、修学旅行で広島を訪れる学校が増えています。光村図書出版では戦争と平和について考える読む単元が、他の3者より早く3年生以上から各学年に設定されています。中学校の学習に向けて意識を高めることができ、かながわ教育ビジョンにおける思いやる力の育成にも効果があると思

委員長

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。全体を通して何かつけ加えなど、ご意見はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、続いて書写のほうに移ってまいりたいと思います。何かご意見はございますでしょうか。それでは、井上委員、お願いします。

井上委員

各者ともさまざまな工夫が見られます。例えば、文字を書く姿勢について、合い言葉や体操などの形で各科のはじめに示して、定着を図る工夫をしています。また、ただ文字を書くということではなくて、主体的・対話的で深い学びにつながるように教材が用意されている点で高く評価できます。自ら見つけたり確かめたりしたことをさらに考えて振り返って、話し合ったりして生かしていくという流れを6年間を通して一定の言葉で

示して意識的な学習を促しています。

さらに、低学年では、楽しみながら繰り返して練習できるように、水書きシートを用意されている点もよいと思いました。

それらの中で東京書籍は、B5判よりも横幅が3センチほど広いA4判を用いています。全体的に書き込める部分が多くて、お手本も大きく、見やすい印象がありました。また、デジタルコンテンツを用いて、より詳しい内容や動画を見られる点が優れていると思いました。

他に学校図書では、都道府県の名前を日本地図と結びつけながら漢字で書くページがあったり、また、ローマ字表についても訓令式だけでなく英語につながるヘボン式も示していたりして、教科横断的な学習に効果があると思いました。また、毛筆のお手本を2ページ分使って大きく示している点も優れていると感じました。

もう1者、光村図書出版ですけれども、やはり同じように、お手本が大変大きくて見やすいですし、市の調査資料にもあったように、ノートや連絡帳の書き方のポイントであるとか、はがきや掲示物に字を書くというような実用的な演習が大変多く入れられているところがよいと思いました。

委員長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。田部井委員。

田部井委員 私は、分量・装丁・表記等の観点からお話しさせていただきます。

どの教科書も習得すべき知識や技能を系統的に配列し、適切な分量で硬筆と毛筆の学習が設定されています。毛筆の始まる3年生の教科書で見ますと、光村図書出版と教育出版は紙面に使われている色使いが落ちついているので、文字に注目して学習できます。両者とも朱墨の穂先で筆使いを示すなど、視覚的

に捉えることができるので、わかりやすいです。

また、キャラクターの動きや擬音語を活用し、リズムを体感しながら筆運びを楽しく学べるよう工夫されています。

構成の面から見ると、光村図書出版は文字が大きめで、各単元が見開き、または1ページになっています。すっきりとした構成ですが、「たいせつ」というマークを設け、「考える」「確かめる」「生かす」の3ステップで、どの児童にとっても何を学ぶのかがわかりやすいものになっています。

また、6年の書写ブックは8ページの構成で、6年間の学習で身につけたことを他教科や日常生活の中で生かせるようになっています。

委員長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

和智委員 私も子どもにとってわかりやすく理解が深まるような内容の工夫ということで、構成上の工夫をお話ししたいと思います。

学校図書の各単元が「確かめて書こう」「考えて書こう」「生かして書こう」の3段階に分かれています。それぞれ約1ページを使用しています。ページ数的には少し増えてしまっていますが、児童が学習の流れを意識しやすいページ構成になっています。

さらに、単元のまとめとして「ふり返ろう」というコーナーに自分の言葉でまとめるスペースがあります。

また、3年生以上の毛筆では各単元の教材が全て半紙と同じ大きさに掲載されていて、児童が活動しやすくなっているなと思いました。

光村図書出版では、井上委員も言及しておりましたが、書写体操の紹介や、別冊の書写ブックなどを通して各活動を大切にしようとする姿勢がうかがえ、自分で学習を振り返ることができるようになっています。

また、終筆（筆の終わりの部分）の特徴であるはねやはらい、それから、筆の流れを猫をキャラクターにした動きで端的にあらわして、児童にとってわかりやすく、関心を持てるようになっていいるなど思いました。

また、児童の実態に即した内容についてお話ししますと、東京書籍、教育出版、光村図書出版は、既習漢字の一覧表が毛筆での掲載になっていて、毛筆での学習が日常生活と結びつきやすくなっています。また、教科横断的な学習について、井上委員からも少しお話がありました。私も他教科との関連性がある方が児童にとってより生活に生かしやすいのではないかと思います。

市の調査資料にも書かれています。各者ともにそのような工夫がされています。教育出版では2年、4年、5年の校外学習のまとめ、東京書籍では2年、3年で連絡帳や観察記録、光村図書出版では5年生の新聞づくりといったものが内容も工夫されており、各学年、藤沢市の実態に合った題材ではないかと思えます。

さらに、光村図書出版では、アイヌ文化や東日本大震災の翌日に発行した手書きの新聞など、神奈川教育ビジョンにうたわれている思いやる力、たくましく生きる力を育む上で効果のある題材が掲載されていて、多様な生活環境に生きる藤沢市の児童には大変適しているのではないかなと思いました。

委員長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。小林委員。

小林委員 うちの子は、養護学校に通っています。それで、自分の子が書写の教科書を開いたときに、書写をやることになったときにどうなるかなと想像して考えてみまして1点だけ気づいたことは、幾つかの出版者で水筆というのがありまして、これは墨ではなくてお水で書くというのを私ははじめて知ったんですが、

墨が手についてしまうことをすごく嫌って、過敏があります。なので、それがお水でできて、何でもできる点は、うちの子でもできるかなと感じました。

委員長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。全体を通してつけ加えなど、何かご意見はございますか。よろしいですか。それでは、続きまして社会の方に移りたいと思います。何かご意見はございますでしょうか。それでは、古島委員。

古島委員 社会科は、小学校3年生から始まる教科です。2年生までの学習の中では身近な人々や社会とかかわる生活科との関連があります。そういった教科間の接続の視点で見ると、県の調査資料の社会の7ページに示されているように、東京書籍は、生活科との関連が生活科で学んだことと、3年生で学ぶこととして明記されています。また、教育出版は、「生活科の学習をふり返ろう」というコーナーで何を学んだか、何ができるようになったか、どうやって学んだかというように整理されて示されています。このような構成の配慮が児童にとって取り組みやすいものと考えます。

委員長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。それでは、中川委員。

中川委員 私は、学習指導要領の改訂のポイントの点からお話しします。どの出版社も児童が主体的に問題解決学習を進めることができるよう、いろいろと工夫されています。その中で教育出版では、各単位時間の問いを、「この時間の問い」というふうにしています。単元のねらいとして、「みんなでつくった学習問題」が示されています。

また、東京書籍については、本時のめあてが具体的に示され

ており、子どもたちが学習課題を持ちやすいのではないかと私は感じました。「つかむ」「しらべる」「まとめる」「いかす」という学習段階をたどりながら、構造的に学習の流れが理解しやすいように工夫されていたと思います。

また、東京書籍ではDマーク、デジタルマークが目を引きました。URLか2次元コードから興味・関心を高めるコンテンツに入ることができ、家庭学習や発展学習につながる教育のICT化への対応がなされていると感じました。

委員長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。田中委員。

田中委員 3者とも、今自分が生きている時代だけではなくて、これから成長して自分が生きていくであろう時代の背景にある困難さまで考える力を身につけるところまで工夫されているなと思いました。

それは、環境問題ですとか、少子・高齢化や防災に絡めて、これから先に起こり得る危険なこともみんなで話し合っていく機会を工夫されているなと思いました。

その中で日本文教出版ですが、一番先にその学年で大切なことというページが載っています。これからこの1年でどんなことを学び、考えていくかということが先にわかるのはいいなと思いました。

あと、東京書籍は、5、6年生は2冊で構成されています。ランドセルの中が重くなって、1つ1つの科目がすごく厚くなってきていまして、2冊になることで子どもへの負担は少なくなるのかなと思う反面、2冊になることで、前に学習したことを振り返ったりすることが難しくなるのかなというのはちょっと懸念しました。

委員長 ありがとうございました。他にいかがでしょうか。三橋委員。

三橋委員 中川委員の話と関連してくるんですけども、教科書のページのつくり方という視点で話をしたいと思います。

3者とも単元の中での学習課程を考えて紙面構成をしています。その中で特に教育出版は、1時間の中の学習課程を考えて、基本見開き2ページで構成されていてわかりやすいです。その2ページの中の一番はじめが「この時間の問い」で始まり、最後に「次につなげよう」という形で、どのページも終わっております。

特に、6年生の歴史でも同じ形が使われているので、歴史の流れとか連続性がかみやすいのではないかと思います。

また、今も話に出ましたけれども、市の調査資料にもあり、教科書が各学年上下巻ではなくて1冊に日本文教出版と教育出版はなっています。1冊になっていることで、1年間を通して単元順を組みかえるなど、各学校で柔軟な教育課程の編成ができると考えられます。

委員長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。畠山委員。

畠山委員 私は、どの教科書が藤沢市の子どもたちに親しみやすいかという点で意見を述べさせていただきます。

と申しますのは、子どもたちは3年生になると自分たちの町を探検して、それから市、県へと広がっていくんですけども、その中で子どもたちは、自分の町、地域に関心や愛着を持つんじゃないかと思うからです。

そう見ていきますと、教育出版の教科書には、神奈川県であったり、藤沢市にゆかりのある人物や地域が大変多いことがわかりました。例えば、3年生の「わたしたちのまちと市」では隣の横浜市を取り上げています。また、「はたらく人とわたしたちの暮らし」の中には崎陽軒のシウマイづくりの工場を扱っ

ています。4年生の「水はどこから」では、相模ダム水系を扱っていて、その水が寒川浄水場、さらには藤沢市へと水が来ていることがわかるようになっています。

同じく4年生の「昔から今へと続くまちづくり」では、「地域に学校をひらく」という中で、小笠原東陽の話が載っています。さらに、「わたしたちの県のまちづくり」では、箱根の寄木細工が登場します。5年生は、県を越えて国土の勉強に入っていくわけなんですけれども、「日本の国土とわたしたちのくらし」では、藤沢市の八ヶ岳野外体験教室のある南牧村を扱っています。行ったことや見たことがあり、自分たちが暮らす地域となじみがある場所、そこが教科書に載っているということは、児童が関心を持って主体的に学びに向かえるのではないかと思います。

委員長 ありがとうございます。他にいかがですか。何か全体を通してつけ加え等、ご意見はございますでしょうか。それでは、小林委員、お願いします。

小林委員 教科書を見ていて気づいたことです。日本文教出版は、3年生から6年生まで教科書に登場してくる人物も一緒に成長しているところがおもしろいなと思いました。

あと、5年生で、教科書を今回はじめて見る中で、見比べるような形で読んだところもあったんですが、5年生の「高い土地のくらし」という部分で、2つの出版者が群馬県の嬭恋村のキャベツづくりを取り上げていまして、そこを見比べたときに、東京書籍がグラフとか表が手書き風になっていて、ちょっと温かみを感じて、読みやすいかなと感じました。

それと、5年生の教科書に自然災害というページがあるんですが、そのタイトルが「自然災害を防ぐ」「自然災害とともに生きる」「自然災害から人々を守る」と、それぞれタイトル

が若干変わっていて、私はこの日本文教出版の「自然災害から人々を守る」という言葉とその内容が、被災者の言葉も載っていて、すごくよく伝わるのではないかと感じました。

委員長 ありがとうございました。他にご意見はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、続きまして地図のほうに移りたいと思います。何かご意見はございますでしょうか。井上委員。

井上委員 東京書籍と帝国書院の2者がありますけれども、それぞれ編集の基本方針がしっかりと地図帳に反映されていて、必要なことが網羅されていると思います。そのうち、私は帝国書院の地図が視覚的に大変見やすいと感じました。また、最初に、「地図って何だろう」「地図のやくそく」というコーナーがありますけれども、そこで地図の成り立ちや、方位、地図記号、距離の求め方などをわかりやすく解説してある点も導入として非常に効果的であると思いました。

また、後ろの資料の部分で、先ほど社会科の教科書でも話題になりましたけれども、自然災害と防災について解説する部分があります。それを帝国書院の方は、さらに自分の地域の防災マップづくりにまでつなげているところがすばらしいと思いました。

さらに全体を通して、「地図マスターへの道」というクイズのようなコーナーが各ページにあります。そこにクイズのようなものがあるので、それに答えて、後ろのすごろくのようなこまを進めていく、そのこまを埋めていくというのがあるんですけども、ゲーム感覚で社会的な知識や見方、考え方を深められる工夫もよいと思いました。

また、調査資料にもあったように、そのコーナーは家庭学習にも生かせると思います。さらに、コンテンツメニュー、2次

元コードがあり、タブレットP Cでさらに資料が見られるようになってきているのも、これからの授業のICT化に即していると感じました。

委員長 ありがとうございました。他にいかがでしょうか。山田委員。

山田委員 私も地図を手にしてみたときに、藤沢市のつながりというところが非常に関連づけやすいなというところが、本市を見た部分と、あと調査資料の部分の本市の児童の実態やというところに関して見させてもらった中で、やはり帝国書院の八ヶ岳の部分、非常に藤沢市とゆかりのある場所でもあるので、そういったところは学習に生かしやすいのかなと。そこも家庭の中で振り返るには非常にいいテーマになるのかなと感じました。

委員長 ありがとうございました。他にいかがでしょうか。一瀬委員。

一瀬委員 私も帝国書院の装丁、表記について1つお話しさせていただきたいと思います。

「広く見わたす地図」、それから、「〇〇地方」というページがあるんですけども、そこについては、山地と平野の色分けが必要最小限にされていて、全体的にととてもすっきりとした印象で見やすいなと感じました。眺めていても目にも優しい感じがしました。

それから、地方ごとの特産物のイラストがあちこちに入っているんです。野菜や果物とか、そういったものが入っているんですけども、小さい表記ながらも、とても色合いが工夫されていて、全体の中でもぱっと見て、ここにこういう特産物があるんだなというのがとてもわかりやすく表現されています。

色合いがすっきりしているということと関連しまして、その中に「～県」とか、そういうフォントがあるんですけども、

そのフォントもとても太くて見やすく、全体を見た中で目にぱつと飛び込んでくるような感じがしています。

地形、それからイラストとか文字等、地図の中にはたくさんの情報が入っているんですけれども、それぞれが認識しやすく、工夫されているなという感じがしています。

今回、3年生の児童がはじめて地図を手にしていくわけですが、その3年生の児童にとっても、とても適切であると感じています。

委員長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。中川委員。

中川委員 学習指導要領の改訂の視点から見させていただきます。

2者とも児童にとってわかりやすく、主体的に学習を深めていく工夫がいろいろなところに盛り込まれていると感じました。

まず、東京書籍の地図帳についてですが、冒頭にある「地図のぼうけんに出発！」というところは、見ていてもとても楽しくて、イラストと地図を見ながら、児童がさまざまつぶやきながら、主体的に調べ学習を深める様子が想像できます。

また、キャラクターが吹き出しでいろいろなページに登場し、その吹き出しで児童が自然に地図を見る視点を持つことができると思います。

一方、帝国書院の地図帳ですが、「世界の国からこんにちは！」というページがありまして、そこでは各国の特産とともに国名も記されています。国名が記されていることにより、児童がより手がかりを持ち、そのページに引き込まれるのではないかと考えます。

その他にも帝国書院は、先ほど井上委員も触れていましたし、市や県の調査書それぞれにも触れていられましたけれども、方位や地図が書かれた「地図のやくそく」というところが丁寧に

わかりやすく記されています。3年生の導入学年だけでなく、高学年になっても使い続けることができると思います。

それから、先ほど山田委員もおっしゃっていましたが、本市の児童の実態や地域等の特性との関連について触れます。市の調査資料にもあります。帝国書院には、高地の様子で、藤沢の小学5年生が毎年訪れ、授業でも扱っている八ヶ岳野外体験教室のある八ヶ岳南牧村についての記載があります。

また、「日本の歴史と世界文化遺産」のところでは、鎌倉の地図や切通しの写真が掲載されているところから、藤沢市の児童の実態にはより適しているのではないかと考えます。

委員長

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。何かつけ加えなど、ご意見はございますか。よろしいですか。

それでは、続きまして算数のほうに移りたいと思います。何かご意見はございますでしょうか。畠山委員。

畠山委員

私は、入門期の算数の工夫についてお話しさせていただきます。

入門期の算数について、教科書でよいと思ったのが東京書籍です。1年生は上下に分冊されていますけれども、1冊目がA4判44ページという薄いものになっています。この薄さと大きさは、はじめて数を扱う数字の苦手な子どもたちにも苦手意識を感じさせない工夫ではないかと思いました。

しかも、このノートというか、教科書の中でブロックを操作したり、書き込みをしたりできますので、これ1冊で入門期の学習を進めることができます。

また、教科書とノートの役割2つを持っておきますので、机の上がいっぱいにならないで操作をしやすいところもいい工夫だと思いました。

1年生の後半にはノートづくりの例も掲載されていて、細かくステップアップしていけるところも魅力だと思います。

このノートづくりですけれども、算数マイノートとして各学年で取り扱われています。

このように、思考の過程や深まりをノートに書く習慣を身につけることで、主体的な学びや思考力、判断力の育成につながっていくのではないかと思います。

それから、算数は積み重ねが重要で、学年を重ねるほど難しいと感じてしまう子が増える傾向があります。そこで、既習事項を確認していくことが大事になるのですが、単元の始まりにその確認ができるという点でも、東京書籍はしっかりサポートができていたと思います。

また、教育出版は、どんな学習が始まるかなという導入部がとて楽しくて、子どもたちにも嫌だなあという苦手意識を感じさせない工夫がありまして、とてもよいと思いました。

委員長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。東委員、お願いします。

東委員 畠山委員もご指摘のように、算数は積み重ねの教科なので、学びの連続性を意識して、数学的な見方、考え方を焦点化し、スパイラルな学びを進めることが有効です。知識や技能の定着を図るため、各者とも補充や発展問題を設定しています。問題数や問題の難易度にややばらつきが見られました。

東京書籍の補充や発展問題は、問題の数が多過ぎず、問題の難易度がそれほど高くはないので、多くの児童にとってほどよく、使いやすいのではないかと思います。

挿絵が見やすいので問題のイメージもつかみやすく、問題を解きやすい工夫がされています。これは、児童が主体的に学習に取り組んだり、考えたりすることにつながりますし、基礎・基本の定着を図る指導がしやすい内容になっていると思います。

また、数学的な見方、考え方を明示し、単に答えを求めるだけではなく、考え方を意識させたり、他教科とのつながりを持たせ、児童の身近な生活の中にある算数に着目させたりすることで、考える力や情報活用能力を育む工夫がされているのもよいと思いました。

委員長 ありがとうございました。他にいかがでしょうか。一瀬委員。

一瀬委員 まず、教育出版について、学習指導要領との関連、内容、構成という観点から少しお話しさせてください。

まず、全学年にわたって主体的・対話的で深い学びになるよう、「はてな」「なるほど」「だったら」の表示がされています。単元全体が問いの連続になるように構成されています。

まず、子どもたちが課題に出会ったときに、はてなと問いを持ち、その問いに対して自分なりの考え方を持つこと、それから、その考えを持って友達と対話しながら解決し、その解決した後、さらに別の課題だったらどうだろうというふうに少しずつ深い学びに発展するという、算数科にとってとても大切な考え方を導く、そういった構成になっています。

また、考えるヒントや、既に学習した既習事項を確認しながら進めるような「学びのマップ」というのが設けられているんですけれども、子どもたちが未知の問題に出会ったときに自分の力で解決できるような学び方を身につけられるよう工夫されています。

また、「友達のノートを見てみよう」というコーナーがあるんですけれども、友達のよさを認め合う場面が設定されていて、算数科を通して、思いやる心、それから、他を認めるような心といった道徳科との関連も図っているところがとてもよいと感じました。

さらに、東京書籍についてなんですけれども、本市の児童の

実態ということ、そういった観点で考えたときに、市の調査書にもあるんですけれども、粘り強く考えられるようにヒントが表示されています。また、自分の考えと比較したり、自分の考えたことを確かめたり、そういったことができるように構成されています。

本市の児童に段階を踏んで考える力を育成する、そういったことにとってもふさわしいのではないかと考えます。

委員長 ありがとうございました。他にいかがでしょうか。岩成委員。

岩成委員 私は、観点2の分量・装丁、表記等の点からお話しさせていただきます。

各者とも構成に関しては工夫されており、大きな差は見られなかったように思います。ただ、分量・装丁に関して言えば、低学年のうちにはできるだけ荷物は軽くして、通学の負担は少なくしたいと考えますので分冊のほうがよいと思います。東京書籍と日本文教出版は1年から5年が分冊で、6年生が1冊、学校図書は全学年が分冊となっています。

ただ、もちろん軽ければよいというわけではなく、分量という点でいえば、例えば、東京書籍のように巻末に、「おもしろもんだいにチャレンジ」を入れるなど、どの教科用図書も補充問題、発展問題を単元末に取り入れて大変充実させていると思います。

委員長 ありがとうございました。他にご意見はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、続きまして理科に移りたいと思います。何かご意見はございますでしょうか。古島委員。

古島委員 教科間の接続の視点で見ていきますと、理科は、小学校3年

生から始まりますが、2年生までの学習の中では、身近な自然とかかわる内容のある生活科との関連があります。そういった視点で見えていきますと、県の調査資料の理科のほうにも示されていますとおり、大日本図書では、生活科と関連した内容に、「生活科とのつながり」と明記されています。

また、教育出版では生活科で学んだことが明記されていて、これまでの学びと理科とのつながりについて子どもたちが意識できるように促していると思います。

委員長 ありがとうございました。他にご意見はいかがでしょうか。
長田委員。

長田委員 今の古島委員の接続という部分で、私も観点1について、中学校の立場からお話ししたいと思います。

この接続の部分は、よくよく考えていきたいことだと思っているんですけども、小学校で学習したことを、さらに専門性を高めながら繰り返し学習していくという理科の学び方の構造になっているという意味では、大日本図書、学校図書、啓林館、ともに中学校への接続についてはスムーズに移行できるように、単元や分野を工夫していると思います。

特に大日本図書については、図版、写真を含めた資料や科学的思考を深めるプロセスが構築されていると感じています。

委員長 ありがとうございました。他にいかがでしょうか。田部井委員。

田部井委員 私は、編修の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容・構成、教科・種目別の観点の観点からお話しさせていただきます。

どの教科書も、子どもが自ら考え、自ら解決することができるように構成されています。古島委員と重複しますが、各者と

も3年生は初めての理科学習ということで、生活科からのつながりとして、自然の観察からの導入になっています。いずれの教科書も写真が多く、視覚的にもわかりやすい構成になっています。

分量・装丁・表記等についても見やすく、読みやすいものとなっています。

教育出版の裏表紙には、どの学年も理科の安全の手引きが掲載されています。重要語には太字でマーカーが引いてあり、文字も大きく、読みやすくなっています。

次に、大日本図書ですが、実験、観察に伴う危険への注意については、朱書きの枠で囲ってインパクトのある表現になっているので注目しやすいです。注意は繰り返し掲載されていますが、なぜ危険なのかという理由まで載せてあるのでわかりやすいと思いました。

また、導入の写真に学校生活を使ったものが多く、写真や図版も大きく見やすいので、学習内容に集中できる教科書だと思います。

委員長 ありがとうございます。他にご意見はありますか。岩成委員。

岩成委員 今回の田部井委員と同じく、私も、各者とも改訂の度に図や写真が大きく、見やすく、そしてきれいになって、構成の仕方、それから巻末の付録もいろいろ工夫されていると感じました。

本市の児童の実態や地域等の特性との関連から言いますと、啓林館と大日本図書で、6年生の「大地のつくりと変化」という単元で、地震によって土地が隆起した例というところで江の島が取り上げられているんですね。江の島というのは藤沢の子どもたちにとって、とても身近であり、親しみの持てる教材だと思います。写真の大きさ、美しさ、わかりやすさで子どもた

ちの目を引くという点では啓林館がよいかなどと思って見ていました。

委員長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。よろしいですか。

 それでは、続きまして生活に移りたいと思います。何かご意見はございますでしょうか。田中委員、お願いします。

田中委員 東京書籍ですが、「ポケットずかん」が実物大であって、イメージがしやすいと思いました。あと、保護者向けのメッセージであったり、Dマークから保護者と子どもが一緒に考え、共有できる仕組みがあるのもいいなと思いました。親子で話し合うことで、お互いに新しい発見につながり、3年生から始まる理科や社会につなげていけると感じました。

委員長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。東委員。

東委員 今回の学習指導要領の改訂では、就学前との円滑な接続が話題になっており、県の調査研究の結果にもありますように、スタートカリキュラムに特徴が見られました。その中で、今、田中委員もご指摘のように、東京書籍では、1年生にとってはじめての小学校生活を進めていくことを考慮して、幼稚園、保育所などでの学びを終えた幼児期までに育ててほしい子どもの姿が具体的に示されています。

 保護者が自分の子どもの状況を見とる共通の物差しとして使用できるので、これまでの生活や経験を振り返り、子どもの実態や課題に気がついたり、今後の学習に見通しを持つことに役立つと感じました。

 そして、情報活用能力の育成についてですが、生活科の学習を通して必要になる習慣や技能、学び方をまとめた資料ページ

が各者ともあります。その中で、東京書籍と日本文教出版では、気持ちの伝え方について扱っているのがよいと思いました。挨拶をすること、素直に自分の気持ちを伝えること、相手の話を聞くこと、相手の気持ちを考えることなど、具体的にスキルを示すことでコミュニケーション力を育むのに役立つと思いました。

最後に、本市の児童の実態との関連についてですが、家庭生活に関する活動についての学習内容を見てみますと、4者が家庭における家族のことを、そして3者、啓林館、東京書籍、日本文教出版が自分でできることを切り口としています。昨今、家族の形やあり方が多様になっているので、取り上げ方に配慮が必要になっていると考えます。

本市では、家族ではなく自分のできることの視点から学習していくのがよいと思いました。

委員長 ありがとうございます。他にご意見はございますか。三橋委員。

三橋委員 私は、活動の広がりとか、3年生以降へのつながりという点で東京書籍の教科書について話していきたいと思います。

2年生の「まちたんけん」というページがあるんですけども、近所のお店から市の施設へと、3年生の社会科につながる視点の広がり方を示唆しています。また、活動範囲の広がりとともに、電車やバスの乗り方についても各者記述されています。電車やバスのマナーについて記述されている教科書は多いのですが、切符の具体的な購入方法や運賃の払い方まで具体的に示しているものは少ないです。その少ない中で東京書籍の教科書は、藤沢市内のバスの乗り方に一番合っていて、わかりやすいと思いました。電車やバスの乗り方の学習は、藤沢市が推進するモビリティ・マネジメント教育にもつながっていくと

考えられます。

もう1点、装丁という視点で学校図書の教科書についてもお話ししたいと思います。

学校図書の教科書は、視覚的にも低学年児童にわかりやすいように、他者に比べると1枚1枚の写真がとても大きいです。子どもたちの生き生きとした表情を大きく写しているので、写真を見ているだけでもわくわくして活動したくなってきます。魅力的な写真が多いので、子どもたちの活動意欲も高まると考えられます。よいつくりだと思います。

委員長 ありがとうございます。他にご意見はございますでしょうか。岩成委員。

岩成委員 私は、生活科と、3年生から学ぶ理科とのつながりに着目して、この教科用図書を見たのですけれども、各者とも飼育、栽培に関する部分がとてもしっかり押さえられていました。特に東京書籍、大日本図書、啓林館の3者は先の学年につながる基礎的なところを大切にしている、子どもたちの学びの継続性ということが考えられているなと思いました。

巻末についています東京書籍の「ポケットずかん」、啓林館の「がくしゅうずかん」、大日本図書の「がくしゅうどうぐばこ」、これらはどれも子どもたちの学びをすごく後押ししてくれるものだと思います。

委員長 ありがとうございます。他にご意見はございますでしょうか。小林委員、お願いします。

小林委員 まず、表紙を見たときに、大日本図書はでこぼこ感があったので、これは教科書をさわろうとするかなというふうに感じました。

それと、内容でお手伝いのことがどの教科書にも書いてあるんですが、学校図書がお手伝いの具体例がとてもわかりやすいと思いました。あと、啓林館は、「えがおになるのはどんなとき」という問いから、お手伝いをすることで家族の笑顔が見られるというふうにつなげていっていたところがよいと思いました。

委員長 ありがとうございます。他にご意見はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、続きまして音楽に移りたいと思います。何かご意見はございますでしょうか。志水委員。

志水委員 音楽は2者になっていますが、私は表記、表現の観点からお話をさせていただきます。

音楽の学習では、歌唱とあわせて楽器も大事な表現活動の1つです。音楽の学習ではじめて楽器と出会うことになるんですけども、正しい持ち方や使い方を習得することがとても大切になります。楽器の扱い方の表記では、教育出版は楽器を持つ児童の姿ですとか、手元の写真を使っています。一方、教育芸術社は、そのような写真に加えて、さらにわかりやすいイラストを使っています。両方あることで、授業の一斉指導を補う、あるいは基礎・基本の定着を図るという面からも、より理解が深まると感じました。

その他に、教育出版では各学年の巻頭でにっぽんのうたを取り上げているページがあります。見開き3ページ分になるような大きな写真を掲載しています。美しい写真で、曲のイメージを広げるには有効です。

一方、教育芸術社は、市の調査資料にも示されていましたがけれども、教材が見開きで完結されるつくりになっていて、全学年コンパクトな大きさを持ち運びがしやすいと思いました。

また、紙面も白を基調にしていまして、歌詞の書かれているページは背景と文字の色にコントラストがつけてあって、児童によっては、とても歌詞の判別がしやすいつくりになっているなというふうに感じました。

委員長 ありがとうございました。他にご意見はございますでしょうか。和智委員。

和智委員 私は、内容についてお話しさせていただきますが、教育出版では、曲づくりに重点を置いているように思いました。1年生でリズムづくり、4年生で「お話し役1、2」「ささえ役」「かざり役」という呼び方で、旋律、副旋律など、役割を意識した曲づくりを行っています。6年生では「動機」という言葉が出てきますが、それを意識した曲づくりを行うように設定していて、主体的、協働的な学習を行うことができます。ですが、藤沢市の児童には若干難しく、活動には時間がかかるかなと思いました。

一方、教育芸術社の曲づくりに関する活動では、4年生で音を限定した中での曲づくり、5年生で打楽器を使ったリズムづくり、6年生で和音の中の音を選ぶ形式の曲づくりになっていて、演奏する楽しさを味わいながら、スモールステップで無理なく学習が進んでいます。この点については、市の調査資料にも載っておりますが、藤沢市の児童の実態に合っていると思われれます。

また、教育芸術社では多様な教材を掲載していて、児童の実態に合った教材を選んで主体的な学習を進めることができると思われました。

委員長 ありがとうございました。他にいかがでしょうか。長田委員、お願いします。

長田委員 それでは、中学校の音楽を一応専門でやってきたので、その立場からということ。

 どちらの教科書も児童が音楽に親しむための工夫が随所に見られています。音楽的な見方・考え方を働かせて、生活や社会の中で音や音楽、音楽文化と豊かにかかわる資質・能力を育成することを目指していると思いました。

 内容についてさらに吟味すると、教育出版は全体に大まかに捉えて音楽の魅力を示している様子に比べると、教育芸術社は、かなり深く研究を重ねた専門性があり、現場にあったつくりになっていると言えます。発達に応じた歌唱、器楽、鑑賞の捉え方、創作についても、今、和智委員からもありましたけれども、大変小さなステップでわかりやすく、中学への接続も非常に丁寧な編修されていると感じました。

委員長 ありがとうございます。他にご意見はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

 それでは、続きまして図工に移りたいと思います。何かご意見はございますか。畠山委員。

畠山委員 図工の方は2者ありまして、開隆堂、日本文教出版ともに子どもたちの創意あふれる作品づくりの工夫がされていると思います。私は、学校によって差が出やすい造形遊びについて見てみました。2者とも大変ダイナミックな楽しい活動が掲載されていますが、藤沢の、特に住宅や商店などに囲まれたような、ちょっと学校の敷地が狭いような、そして、校庭の木々がちょっと少ないというような、外での活動がしにくい学校も多いのではないかと考えています。その中で、日本文教出版の教科書では、外での造形遊びだけでなく、同じ題材目的を持った造形遊びを教室で行う方法を紹介している点がよいと思いました。

それから、日本文教出版では、5年生で「形が動く 絵が動く」というアニメーションにつながる題材がありました。ものや人などを動かして、カメラでこま撮りをするというようなものなのですが、アニメーションが映像文化として認められていて、日本がその第一線にもあるということを考えると、子どもたちが意欲や関心を持って学べるのではないかなと思います。

また、ICT教育と関連づけたり、アニメーションの理解につなげたりとか、学習も広がるよい題材だと思いました。

委員長 ありがとうございました。他にご意見はありますか。和智委員、お願いします。

和智委員 私は、表記の点について少しお話しさせていただきたいと思います。

どちらの教科書も各単元にわかりやすくめあてが表示されていて、めあてに沿って活動が広がり、深まるように工夫されていました。開隆堂のほうは、めあての文言も何々しようという児童目線の表記になっていて、より児童がめあてを意識しやすいと思われます。

また、どちらの教科書も全学年に共通するマークを用いて、必要な材料や道具を端的にあらわしたり、刃物などを使用する活動では、危険性を知らせるコーナーを工夫したりと、安全に主体的な造形活動を進められるように十分配慮されているように思いました。

ただ、開隆堂の方がマークに道具の名前等も明記してあって、よりわかりやすいのではないかなと思いました。

委員長 ありがとうございました。他にご意見はありますか。田部井委員。

田部井委員 両者ともに造形的な見方・考え方を働かせ、生活の中の形や色、色と豊かにかかわるための趣旨と工夫が多く見られます。特に、日本文教出版の「ひらめきポケット」は、日常何気なく見ているものを造形的な視点で捉えることで、新たに見えてくる色や形の発見があり、とても興味深いものでした。

一方、開隆堂については、学習のめあての1つにキャラクター「くふうさん」が使われ、形や色の工夫ができるように示されています。児童にとっては親しみやすく、わかりやすいものだと思いました。

また、鑑賞の題材では、見る、聞く、さわるなど、五感を使って形や色を幅広く、より身近なものに感じ取らせるよう工夫されています。特に、絵から聞こえる音は、聞いて感じた音を形と色で表現するという題材で、鑑賞と表現を相互に関連づけて学べる点もよいと思いました。

また、地域との関連からお話ししますと、開隆堂の「みんなのギャラリー」では、茅ヶ崎アートペイントや横浜美術館の子どものアトリエが掲載されているので、本市の児童は地域とのつながりをより身近に感じることができると思いました。

委員長 ありがとうございます。他にご意見はございますか。よろしいでしょうか。

それでは、ここで10分間ほど休憩としたいと思います。
10時25分になりましたら審議を再開いたします。

それでは、休憩といたします。

午前10時13分休憩

午前10時25分再開

委員長 それでは、審議を再開いたします。

続きまして、家庭科に移りたいと思います。

それでは、何かご意見はございますでしょうか。

古島委員 家庭科は、東京書籍と開隆堂の2者です。両方の教科書ともに写真やイラスト、図などをふんだんに用いて児童の理解を促す働きかけをしています。実習で気をつける内容についても、どちらも安全マークというように強調して、子どもの意識を向けるように促しています。

学習の見通しを持つという視点では、県の調査資料、家庭科1ページに示されていますように、東京書籍は、学習の流れを3つのステップで示していき、主体的に問題解決に取り組む見通しを提示しています。また、「めあて」と「ふり返ろう」ということも明記していき、児童が確かめながら学習を進められるように促しています。

開隆堂は、県の調査資料の家庭の2ページに示されていますように、それぞれの題材の問題解決のプロセスに沿って3つの小題材で構成して、主体的に問題解決に取り組む見通しを提示しています。

また、キャラクターのつぶやく吹き出しで生活の見方、考え方の中で重視する視点を示して、学習に見通しを持てるように促しています。

今回の学習指導要領の改訂で新設されました「家族・家庭生活についての課題と実践」についても、両教科書ともに取り上げられていて、東京書籍では「生活を変えるチャンス！」として、実践をレポートや新聞などにまとめる例を提示しています。開隆堂は、生活の課題と実践として複数の課題が掲載されていて、その中から児童が選んで実践できるように設定されています。

委員長 ありがとうございます。他にご意見はございますでしょうか。志水委員。

志水委員

私は、まず分量・装丁の観点からお話をしたいと思います。

両者はサイズが違います。A4判の東京書籍は大きいために実物大の写真を巻末に載せておりまして、大変わかりやすいつくりになっています。一方の開隆堂はA5判でコンパクトです。調理や裁縫など、実技や道具の多い教科であるので、子どもたちの机の上にもいろいろ置くという部分では、A5判の大きさは学習の実態に合っているサイズかなというふうに思いました。

次に、中学校との関連についてということでお話をします。東京書籍は、関連する内容にはマークをつけたり、5年生と6年生の最後にまとめのページを設定していて、学年間や中学校への接続がスムーズになるように配慮されています。

開隆堂は、市の調査資料にもありましたけれども、2年間をまとめて振り返り、中学校への学習につなげるページが設定されています。児童は、中学校への学習に期待が高まり、また、教員にとっても中学校の学習との連携が意識できる、そういったつくりになっていると思いました。

委員長

ありがとうございました。他にご意見はございますか。田部井委員。

田部井委員

児童の実態や地域などの特性との関連からお話しさせていただきます。

現在、多様な家族形態がある中で、東京書籍は家族とのかかわりだけではなく、地域の人々とのかかわりを広げ、深めていくよう工夫されています。高齢者や小さな子ども、異世代の人々との交流や、東日本大震災で被災した児童の取り組みの掲載は、本市の児童が具体的なイメージを持って、これからの生活の中で地域の一員としてできることを考え、深めていくことができます。

次に、両者とも伝統マークを用い、日本の生活文化に関する内容を取り上げていました。特に、開隆堂は日本各地に伝わる味噌やおやつ、雑煮などが一覧掲載してあり、地域の特色や違いがわかりやすいと思いました。関東風雑煮や神奈川県へのへらだんごなどは、本市の児童にとって身近な地域の文化に触れることができます。

また、両者ともキャリア教育の視点での掲載があり、学習した基礎、技能が仕事につながっている事例を挙げていました。その中で開隆堂は、フィギュアスケートの羽生選手や宇野選手の衣装制作にかかわる人の紹介をしていました。児童は、憧れや親しみを持って将来の仕事や生き方に関心が広まっていくと思いました。

委員長

ありがとうございました。他にご意見はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、続きまして保健に移りたいと思います。何かご意見はございませんでしょうか。岩成委員、お願いします。

岩成委員

保健ですけれども、それぞれどの教科用図書も指導要領に準じた編成で、よくまとめられていたと思います。その中で、子どもたちが学習するに当たってこの教科用図書を開いたときに、ぱっと目と頭に入ってくる教科書は、学研教育みらいと光文書院のものでした。学研教育みらいは、1時間の流れがはっきりしていて、その中で子どもたちが考えを書き込むこともできるつくりになっていました。また、光文書院もイラストを多く用いたり、決まったレイアウトにしたり、子どもたちが学びやすくなる工夫がなされていました。

内容も、2者とも、いじめや心の問題、がん教育、飲酒、たばこ、薬物乱用防止など、今日的な課題にもしっかりと向き合っていると感じました。

委員長 ありがとうございます。他にご意見はございますか。田中委員、お願いします。

田中委員 保護者の視点からです。学研教育みらいと光文書院は、たばこ、飲酒、薬物の体への影響が実際の写真を使って示されておりました。子どもたちに、いくらこれはやっちゃいけない、だめなんだよ、体に悪いんだよと伝えるよりも、実際にこうなってしまうんだということが目で見てわかった方が、ちょっとインパクトの強い写真でしたけれども、よくわかるのではないかと思います。

 その薬物であったり、たばこや飲酒の影響が自分の体だけではなく、それから先の新しい命への影響にまでつなげられていたので、よかったと思いました。

委員長 ありがとうございます。他にご意見はございますでしょうか。中川委員。

中川委員 私も光文書院と学研教育みらいについてお話しさせていただきます。

 私は、構成の面からお話しします。光文書院は、巻頭でオリンピック・パラリンピック選手のメッセージを載せています。児童がこれから始まる学習への興味・関心を持ちやすいと感じました。また、「単元のとびら」では、4コマ漫画で学習内容をストーリー形式で示していました。何のために、何をどのように学ぶかがわかりやすく理解できると思います。

 学研教育みらいの構成ですが、1単位時間を見開き2ページで扱っています。学習の流れがわかりやすく、児童も学習に入りやすいと思います。「つかむ」「考える・調べる」「まとめる・深める」の構成で学習を進めていて、見通しを持って学習

が進められると思います。市の調査資料にも同様な記載がありました。

また、「友達と」マークや「共有」を表すマークを配置しています。他にも、自らの生活を振り返りチェックする活動を設けたり、「かがくの目」「もっと知りたい・調べたい」という項目が設定されています。児童が教科書に親しみやすく、主体的に取り組める工夫が随所に見られました。

委員長 ありがとうございました。他にご意見はございますか。志水委員。

志水委員 私は、保健の生涯にわたって心身の健康を保持増進する態度を養うという観点からお話をさせていただきます。

ここ近年、学校生活の中でも配慮している熱中症のことについては、どの者も扱っていましたが、扱い方に違いがありました。文教社ですが、ここは1ページを使いまして、熱中症になりやすい環境や危険信号、フローチャートによる手当ての方法、予防までを詳しく解説しています。

また、学研教育みらいは、他の者が記載している予防方法や手当てだけではなくて、どのようなときに熱中症になるのかを最初に提示しています。文教社も学研教育みらいも熱中症の危険について、単に予防だけではなく、児童自らが考え、判断する材料も提示している点で工夫されていると思いました。

次に、市内小学校の実態から、各者の心の健康、特に、児童が困ったり悩んだりしたときにどうするとよいか、相談相手としてどのような人々を示しているかという点から見てみました。

各者共通して、相談相手には家族、友達、先生を挙げて、また、外部の相談機関の電話番号などを紹介しています。その中で、学研教育みらいは、最初から登場人物の中に男女のスクー

ルカウンセラーが入っております、スクールカウンセラーの言葉を吹き出しで紹介するなどしています。

本市では、全小学校にスクールカウンセラーが派遣されておりまして、身近な相談相手として子どもたちにも浸透してきている、そういった実態に合っているのではないかなと感じました。

委員長 ありがとうございます。他にご意見はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、続きまして英語に移りたいと思います。何かご意見はございますでしょうか。東委員。

東委員 外国語の目標は、外国語におけるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通し、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することです。

3、4年生での外国語活動の学習から、教科としての外国語、英語への円滑な接続に向けて、各者それぞれ工夫がありました。現行の「We Can!」を意識した内容や構成になっているものや、15分程度の短い時間での学習活動に対応できるものが多いとも感じました。

内容、構成の点から光村図書出版と学校図書についてお話しします。光村図書出版では、市の調査資料にもありますように、スモールステップで進み、基礎・基本の定着も意図し、英語学習の観点に沿った学びの構成が整理されていると感じました。

初期の英語学習で自分のことから表現できることを徐々に広げていくという流れはとても自然で、親しみやすい活動場面が想定されているのがよいと思います。

そして、物語が多く取り入れられ、「おむすびころりん」の英語版も入っています。物語を通して、ある程度の量のある英

語に触れることはよいことで、特に親しみのある日本の昔話は理解しやすいので、英語の理解に自信を持って楽しく学習を進められると感じました。

また、721語の英単語が使われていますが、単語の選定に工夫している点が評価できます。中学校以降で学習する単語に生活語彙が少ないことが表現力の伸長に影響しているとの考えもあるので、語彙の選定は重要だと思います。

また、絵辞典の形で日本語を介さず単語を理解させたり、使用場面を与えて単語の使い方をわかりやすく示していたりするので、的確に理解させ、表現力を育むのに役立つと期待します。

学校図書でも、巻末の単語リストやワードコーナーで名詞や前置詞の使い方など、日本語にはない英語の特徴をしっかりと押さえて自然な形で示すよう工夫されていて、とてもよいと思いました。

また、繰り返しを意識して文字指導などを丁寧に行っている点、歌、お話など、多様で意味のある活動がたくさん用意されている点も魅力があると思います。

委員長 ありがとうございます。他にご意見はございますか。長田委員。

長田委員 今、東委員は専門的な見地からということでお話ししてくださったので、私はさらに、小学校から今回英語が入るところでは、どの教科書も自分が児童だったらどうだろうという目線で、とにかくページをめくってみました。

QRコードを使っているところが非常に現代的というか、今当たり前前になっているかもしれないですけども、自分も使うことが増えているなと思いながら、実際にそれを使ってスマホで発音してみました。どれもすごく楽しかったんです。活用については、今の時代だからこそうまく活用していきたいなと感

じましたし、もしこういう形で勉強できたら、自分は英語がしゃべれるようになったのではないかと思うほどでした。

家庭によっては利用できないのではないかという心配もあるかと思いますが、タブレットが利用できる機会を学校としても保障しつつ、図書館や公的な機関でも活用できるようにしていけば、児童にとって環境はよい方向になるのではないかと思います。

全者、QRコードを採用しているので大変効果的だと思いました。また、開隆堂、三省堂については、中学校の英語の教科書で培ってきた内容の濃さが生かされていて、何を学ぶかを踏まえて小学校での導入教材を構成しているというふうに感じました。

委員長 ありがとうございます。他にご意見はございますか。山田委員。

山田委員 私は、教科書を見たとき保護者の目線というところを意識して、この外国語を小学校5年生から学ぶというところのスタート時点の意味づけがどういうふうに伝わるかなという観点で見させていただきました。

啓林館と光村図書出版と、あと三省堂さんの教科書に関しては、英語を使うと、こういう世界観が広がるということが教科書の冒頭部分に見えるビジュアルが結構多く使われていて、そのストーリーから英語を学ぶというところがしっかりスタートアップしやすいのかなというふうに感じました。

あとは、東京書籍は、別冊が使われたりとか、いろいろ工夫なされている中で、やはり英語に親しんでいく、英語をツールとしてしっかり活用できるところが各者とも配慮されていると感じました。

委員長 ありがとうございます。他にご意見は。古島委員。

古島委員 今、山田委員もおっしゃったところと共通する部分があるんですが、小学校では3、4年生で外国語活動を導入して、聞くこと、話すことを中心とした活動を通じて、外国語に慣れ親しむですとか、学習への動機を高めるということにずっと取り組んでいるわけで、5年生からの文字を読むこと、書くことを加えて、総合的、系統的に扱う教科学習につながってくるということになります。

5年生の英語は教科の入口となるわけですから、段階的に英語の表記が増えていくような教科書が児童にとっても抵抗感が少なく、新たな教科の導入ができるものというふうに考えます。

そういった視点で見ると、どの教科書も工夫されているんですが、特に、東京書籍はA4判で写真やイラストが大きく、学習のめあても日本語で明記されています。また、教育出版はイラストや写真で始まっていて、少しずつ文字に触れる、そういった流れが示されていると思いました。

委員長 ありがとうございます。他にご意見はございますか。一瀬委員。

一瀬委員 私は、装丁というところで、啓林館についてお話をさせていただきます。

ぱっと見たときに、どの教科書もそれぞれ特徴があると思うんですけども、啓林館については、教科書の随所に設定されているワークシートがあるんですね。自分の考えに合う言葉を選びながら例文を見たりして、直接そこに書き込めるような場所があちこちにあるなというふうに思いました。文字を書くということには、まだまだ慣れていない子どもたちにとって、考えたことをすぐ書けるという構成はとても取り組みやすく、基

本的な表現とか、語彙、文字を書くことに無理なく進んでいけるんじゃないかなというふうに感じています。

また、同じく啓林館の本市の児童の実態を考えたときに、横浜のベイブリッジが取り上げられています。ベイブリッジ、横浜というのは、本市の児童にとっても、いろいろな行事のときにも通るような場所ですし、とても親しみやすく、外国語というところに意欲を高める内容につながっていくんじゃないかなというふうに考えています。

委員長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。田中委員。

田中委員 私も啓林館について意見させていただきます。

大きさは小さいほうのサイズなんですけども、広げたときとか、さわった感じ、めくった感じが一番なじみやすいというか、扱いやすい教科書だなと思いました。見開きにしたときにも、しっかり見開きになって、一番最初の単元、この啓林館ではユニットと表現してましたが、ユニット部分の導入編が見開きで1つの絵になっていて、そのイラストの中からコミュニケーションが生まれてくるような工夫がされていました。

その後文字を書いていたりですとか、書き込めるスペースがいっぱいあって、実際、それぞれの教科書を見たときに、5年生、6年生と見て、6年生の最後にこんなことまで求められてるのかと最初驚いたんです。

ただ、ステップがとても緩やかで、苦手意識をなくすようなイメージがあったのが啓林館の教科書だったと思います。とにかく中学校に入るまでに英語が苦手という意識じゃなくて、とても楽しいものだと思って中学校の英語に進んでいけるような授業にしてほしいなと思います。

あと、QRコードで音声、ネイティブな発音が聞けるというのはびっくりしました。やっぱりやっけていて親が教えられない

もので、家に帰ってきてから一緒に確認できることはとてもいいなと思いました。

委員長 ありがとうございました。他にご意見はありませんか。井上委員。

井上委員 各者とも小学校学習指導要領改訂の要点を踏まえて、英語の4技能5領域について目標が達せられるようによく構成されていました。実際のコミュニケーションにおいて活用できる英語の基礎的な技能を児童が楽しみながら身につけられるように、さまざまな活動や、それらに伴う巻末のカードとかシートなどについても非常に使いやすく工夫されています。

私は長く中学校で英語を教えてきましたけれども、小学校の英語教育が始まり、小学校の先生方に英語を教えていただくことになりました。私は小学校の段階で最も重要なことは、英語の音声や文字、音とか文字というものについて慣れ親しむということ、そして何よりも、先ほど田中委員からもありましたけれども、英語を使うということを楽しむ姿勢を身につけることだというふうに考えています。

日本に生活していると、実生活では特に英語を使用する必要がないわけなんですけれども、そういう環境にある児童に実用的な英語による運用能力を身につけさせるためには、やっぱり、まず、授業の中で目的を持って実際に英語を使う必然性のある場面や状況をきちんと設定する。余りわざとらしくなくというんでしょうか、必要があってという場面を設定する。そして、英語で伝え合える喜び、ふだん日本語で話している者同士で構わないので、英語で伝え合える喜びを実感させることが非常に大切です。

そうすることによって、授業以外のところでも英語を使ってみたりとか、それから、自分でもっともっと学んでみたりする

という意欲を持たせることができます。

そういう点で教科書を見たときに、東京書籍と光村図書出版は、非常にうまく構成されていると思います。2年間の教科書のレッスンの並べ方についても、習得させたい表現や文法が優先されて、流れとして余り脈絡なく並んでいて、今日はこれ、今日はこれ、というふうに配置されているよりも、やはり2年間の流れというものが大事なのではないかなと思います。

この2者については、徐々にまず自分のこと、そして、身の周りのこと、次に地域のこと、日本のこと、世界のこと、さらに自分の未来のことという流れで並んでいるんですけども、そういうことが実際に英語を使えるようになっていく自分であるとか、英語によって広がっていく世界をイメージしやすいというふうに思います。

特に、東京書籍については、5年生のはじめに、英語を使って自分がどうなりたいのかということを書かせるところがあります。2年間で段階を追って、常に英語を使用する場面や目的をはっきり意識させて表現させている、そういう点が非常に優れていると思います。

また、多くの方がご覧になったと思いますが、*「Picture Dictionary」*という別冊がありまして、語彙とか基本文型がまとまった別冊があるんですけども、英語の基礎の習得であるとか、それから表現活動の虎の巻として大変有効であるというふうに感じました。児童はもちろん、小学校の先生方にとっても使いやすいのではないかと思います。

また、先ほど長田委員や田中委員が触れられたQRコードを用いて、スマートフォンやタブレットなどで音声や映像が繰り返し視聴できる工夫についても、外国語の習得という観点から見ると、児童が興味を持って何度も繰り返して英語に触れることは大変効果的でありますし、必要なことです。その点でも、やはり東京書籍と光村図書出版は充実していると思います。特

に東京書籍は、音だけではなくて、教科書のページに即して、その教科書に出ている絵に似た人物が登場する実写の映像があって、しゃべって聞かせるとか、内容が非常に優れていました。

光村図書も充実していたんですけれども、逆に、練習問題のような部分も聞けてしまうので、授業の中で扱いたい部分をもう既に自宅で聞いてしまっている児童とそうでない児童との差異が生じてしまうおそれがあるかなというふうに感じました。

委員長 ありがとうございます。他にご意見はございませんか。小林委員。

小林委員 今の井上先生のご意見にすごく賛同して聞いていたんですが、私からもちょっと補足的に細かいこととお話しします。

まず、5年生が最初にはじめて教科書を開くというふうに想像して、どの出版者の教科書も開いてみたところ、私が感じたのは、東京書籍の英語を使ってコミュニケーションをとるときには、まず自分を知る、国を知ることが、伝えたいことがわかると最初に感じました。

次に、自分が英語を学んでいくということを想像しながら見ていくと、東京書籍の「ことば探検」というコーナーがあるんですが、すごくそれが印象に残ることが多くて、例えば、自分を中心に家族の英語表現だったり、あと、ローマ字と英語の違いとかも載っていたりとか、ああ、なるほどなと思うことが結構東京書籍には載っているなと感じました。

あと、光村図書出版、これも「4つの『たいせつ』」というところで、スマイル、アイコンタクト、クリアボイス、レスポンスという「4つの『たいせつ』」が挙げられているんですけど、これは英語を話すときにとっても大切なことだと思ひまして、でも、これって恥ずかしいことでもあって、英語でこれを行うのは、最初に先生と話したり、お友達と実際英語で話しましょう

となったときには恥ずかしいことなのかなと。ただ、ここを乗り越えると表現が身についたりもできていくのかなと思うと、やっぱりこれは大切なことだなとすごく感じました。

それと、これは2つの出版者ではないんですけれども、国語の教科書に出てきた内容、例えば「お手紙」とか「おおきなかぶ」とか、それが英語版になっているものを読んだときに、最初に物語がわかっているの、何となく英語も入ってくるというような感覚が自分にありました。

委員長 ありがとうございました。他にご意見はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、続きまして道徳に移りたいと思います。何かご意見はございませんでしょうか。三橋委員。

三橋委員 道徳ですけれども、学習のめあてとか手引きという視点で話をしたいと思います。

8者とも、書き方は違うんですけれども、題材の前や後にその時間に考えてほしいことについて記してあります。市の調査資料にも記してあるのですが、光村図書出版と教育出版は、その題材について考えるだけでなく、「つなげよう」「ふかめよう」と、授業が終わった後も自ら考え、行動していくように示唆していて、とてもよいと思いました。

特に光村図書出版は、発展的な学習を意識してさまざまな活動を紹介してあり、幅広い思考や活動ができると考えます。

委員長 ありがとうございました。他にご意見はございますか。畠山委員。

畠山委員 私は同学年で全ての者が掲載している共通教材を通して、その工夫について見させていただきました。同学年に全者が掲

載している共通の教材は1年生の「かぼちやのつる」だけだったんですけれども、教育出版や東京書籍では、絵と吹き出しで物語を展開させていて、漫画だったり、紙芝居風のつくりになっているので、文章を読むことが難しい1年生にも抵抗なく読むことができ、よい工夫であると思いました。

その中でも教育出版は、この教材で何を学んだかを話し合わせる部分もあり、よかったと思います。

光村図書は、「かぼちやのつる」だけでなく、全学年を通して長く親しまれてきた定番の教材を多く取り上げていますが、どの教材にも「考えよう・話し合おう」の欄を設け、その教材で学ぶべきめあてや問いがしっかりと記載されています。

考える柱を明確にすることで話合いがぶれずに、道徳的価値を見出しやすいと感じました。また、「つなげよう」という欄もありまして、授業で学んだことを実際の生活の中で生かせるように導いている点がよいと思いました。

次に、教科書の構成から、それぞれの工夫を見させていただきました。

まず、各教材における内容項目の分類については、どの者も記号や色分けなどで工夫をされているのですが、東京書籍は、目次とは別に1年間で学ぶことのページを設け、掲載している教材が4つの視点のどれかに分類され、どの内容項目がテーマなのかが明確になっています。

これにより、保護者も自分の子どもが教科書の教材を通してどのような道徳性を養うことができるのかということを一目で確認できるわかりやすい構成だと思いました。

また、学習の進め方については、どの者も巻頭に説明のページを設けていますが、東京書籍は挿絵を多用せず必要事項を簡単な文章で記しているため、すっきりしていて、わかりやすいと思いました。

最後に、各教材の分量についてですが、光村図書は、各教材

において考えるポイントがはっきりするように、原作にある不要な説明であったり、今の時代に合わない言い回しを極力省くような工夫が見られました。これによって、教材の文章量がちょうどよくなって、本文の読解が中心となるようなことが少なくなると思いました。

この他にも、光村図書は全学年にわたって優しい雰囲気の内挿絵と美しく大きな写真が掲載されています。これらは、教材への興味・関心を抱かせるとともに、肯定的に入り込む助けになると思いました。

委員長 ありがとうございました。他にご意見は、井上委員。

井上委員 8者とも学習指導要領の求める「考え、議論する道徳」の授業の実現のために、発達段階に応じてさまざまな工夫がなされ、甲乙つけがたい仕上がりになっていると感じました。

その中で私が注目したのは、各単元の最初に書かれている表現です。何者かの教科書では、それぞれのタイトルの前に、その単元が求める道徳的価値感そのまま書かれているものがあります。例えば、「相手の立場に立って親切に」とか、「時と場をわきまえ、真心を持って」などという表現です。それらはいわば、これから触れる題材が求める結論といいますか、大人が求めているものになります。

そうすると、児童はあらかじめ、そういうことを求められているというふうに感じて題材を読み進めていくことになる可能性があります。そういうことから、タイトルに添えてある言葉は、問いかけのようなものであったり、逆に何もなかったりするほうが児童の道徳的葛藤を生むには効果的ではないかというふうに考えます。

そういう点から評価できるのは、光村図書出版、光文書院、学研教育みらいの3者であると思いました。光村図書出版

は、キャラクターから児童自身への問いかけの形でテーマを投げかけています。また、6年間を通じて、最初のところに、「みんな生きている みんなで生きている」というテーマで挿絵と言葉を載せているんですけれども、今言った言葉は共通なんですけれども、その後の文章については発達段階に応じて変わっていくというものです。

また、道徳の授業の意味であるとか、「話し合っ、演じて、読んで、書いて、考えよう」という学び方をわかりやすく示していたりする点も優れていると思いました。

さらに、QRコードを用いて朗読を聞けるデジタルコンテンツも利用価値があると思いました。

光文書院は問いかけの形で考えさせるようにテーマが示してあり、絵や写真が多くて、文字情報が多過ぎない工夫があると思いました。

学研教育みらいについては、教材を「私のこと」「あなたと私」「社会と私」「命や自然と私」の4つにシンプルに分けて、道徳的価値感を直接示すことなく、児童に感じ、考えさせる工夫をしていると思います。6年間を通じて、毎年、巻頭に今の私について書き込むコーナーがあることも評価できると思いました。

委員長 ありがとうございました。他にご意見はありませんか。山田委員。

山田委員 道徳の教科書を見させてもらって、別冊の道徳ノートがあるものが何者かあるんですけれども、その中と、あと皆さんのお話を伺いながら感じたこととして、ツールが決まっていることというのは、教えることがどの先生にとっても比較的近い水準で保たれるという観点がある一方で、指導することが誘導されやすいという極めて表裏一体の部分があるんだなというのをす

ごく感じました。

私はどちらかというと、ツールが整っていたほうが同じものをどこで受けても受けやすいというふうなところに利点を感じたという部分はあったんですけども、確かに子どもたちの視点というところが広がる方向で考えていく観点も必要なんだなというのを今回感じた次第です。ありがとうございます。

委員長 ありがとうございます。他にご意見はありませんか。一瀬委員。

一瀬委員 何人かの委員さんもおっしゃっていたみたいに、私も光村図書について、学習に入る前にキャラクターがさりげなく、ふわふわっと考えてほしいことを呼びかけているところ、決して価値観の押しつけではなくて、題材に入る前に児童自身が自分ならどんなふう考えるだろうかというようなことを、問題意識を持たせるような呼びかけをしているようなところが、これからその題材に取り組むに当たってとても有効ではないかと感じました。

また、教材の最後には理解をさらに深めるための問いとして、「考えよう・話し合おう」「つなげよう」というのが設けられています。また、教材文の途中に問いが設けられていたり、児童が題材を通して主体的に取り組んだり、理解がさらに深まるような構成になっているのではないかと感じました。

また、全体的にとっても優しい色合いと、それから、イラストもやわらかい感じがしまして、道徳というところを考えたときに落ちついた気持ちで学習活動が進められるような感じがいたしました。

委員長 ありがとうございます。他にご意見はございますか。東委員。

東委員

地域の特性という観点からお話しします。

市内を走る江ノ電に関する資料が1者、東京五輪、ヨット、キエル兄弟など、オリンピック・パラリンピック関係の題材の扱いが全者、杉原千畝が4者で扱われています。オリンピック、パラリンピックの資料と、一言で言っても内容項目はさまざま、幅広く項目が設定されていました。そして、藤沢市内に一時期自宅があった杉原氏の資料は、主に人権や国際理解についての内容です。

光村図書出版では、杉原氏の人道的な行為だけではなく、阪神・淡路大震災の出来事を加え、社会・歴史、現代との結びつきを持たせた資料になっているのがよいと思いました。

本市とかかわりのある資料を取り上げることによって、児童がより身近なことと感じたり、深く考えたりして道徳性を養っていけると考えます。

委員長

ありがとうございました。他にご意見はございますか。田中委員。

田中委員

道徳の教科書を見たときに一番最初に思ったのが、どれも意外としっかり教科書なんだという、しっかり厚みがあってというのはちょっと驚きました。今意見がいろいろありましたけれども、タイトル、題名の導入部分を見て、そのテーマに対する価値感やイメージを特別なものにしない工夫をされている教科書は、子どもたちが発言しやすく、いろいろな意見が出る中で、自分と違う意見があったとしても、「そういう考え方もあるんだな」と素直に受けとめられることですか、いろいろな価値観、それぞれ1人1人違うんだよという気づきにも発展してほしいなと思いました。答えに向かって導いていくものではなくて、さまざまな意見が自由に出せるような授業であってほしい

と思います。

あともう1つ、光村図書出版で、「演じてみよう」というコーナーがあるんですけども、演じることで、そのときにどんな気持ちになったか、それを見ている、自分とは思っていない発言をしなければいけない場面もあると思うんですけども、そのとき、実際どういう気持ちになったか、そういう言葉を受けたときにどう感じたかということ自分の体で実感できるということはよいなと思いました。

委員長

ありがとうございました。他にご意見はございませんか。よろしいでしょうか。

それでは、これで本日予定された議題に関する審議は終わりましたけれども、全体を通して委員の皆様、何かありますでしょうか。よろしいでしょうか。では、特になしということでございますので、次回の審議委員会の日程等について確認をいたします。

次回の審議委員会は7月12日金曜日、午前9時から、場所は藤沢市教育文化センター大会議室でと考えておりますが、日程等、よろしいでしょうか。

では、次回の議題について連絡申し上げます。

次回の議題は、令和2年度使用特別支援学校及び小学校もしくは中学校の特別支援学級用教科用図書の審議と、令和2年度使用中学校用教科用図書の審議についてとなります。

このことについて、皆様からご意見やご確認等はございますでしょうか。岩成委員。

岩成委員

中学校の教科用図書の審議についてなんですけれども、国からの通知によれば、4年間の使用実績を踏まえつつ、平成27年度採択における調査研究の内容等を活用することも考えられると示されております。

そこで、中学校の校長先生お2人には、現在使用している教科用図書について、各中学校の使用実績を教えていただけるとありがたいのですが、いかがでしょうか。

一瀬委員　私も今の意見に賛成しております。現在の状況を踏まえて、第3回で審議をしていくのが望ましいと考えております。

委員長　この件に関しまして、他にご意見はございますか。
それでは、中学校の井上委員並びに長田委員、今いただいたご意見についていかがでしょうか。井上委員。

井上委員　今のご意見に沿って、使用状況を確認して臨みたいと思います。よろしく願いいたします。

委員長　長田委員、いかがでしょうか。

長田委員　同様に、中学校の実績という部分をお伝えしながら審議に生かしていきたいと思います。

委員長　ありがとうございます。では、中学校の教科用図書の採択につきましても、4年間の使用実績を踏まえつつ、平成27年度採択時における調査研究の内容等を活用して審議を行うということによろしいでしょうか。

各委員　結構です。

委員長　では、第3回目につきましてもよろしく願いいたします。事務局から何か連絡等はありませんでしょうか。

事務局　特にございませぬ。

委員長 特にないということですので、本日は長時間にわたるご審議、本当にありがとうございました。

 これをもちまして、第2回令和2年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会を閉会といたします。本日はありがとうございました。

この会議の結果の記載に相違ないことを、確認する。

署名委員

第3回令和2年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会会議録

令和元年7月12日（金）9時00分～

委員長

皆様、おはようございます。本日は、お忙しい中、ご出席いただきまして、ありがとうございます。

会議の開会に先立ちまして、傍聴の皆様にお願いがございます。お手元の傍聴要領をご覧ください。藤沢市教科用図書採択審議委員会の傍聴要領に従い傍聴くださることをお願いいたします。

なお、この会議は公開でございます。審議の内容につきましては会議録作成の都合上、録音させていただきます。

なお、小林委員につきましては、本日、遅れて参加される旨、承っております。

それでは、藤沢市教科用図書採択審議委員会規則第5条2項の規定にあります委員の半数以上の出席要件を満たしておりますので、ただいまより、第3回令和2年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会を開催いたします。

今回、御審議いただく内容は、議題1「令和2年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書について」、議題2「令和2年度使用中学校用教科用図書について」、議題3「令和2年度使用藤沢市教科用図書に関する審議結果の答申について」の3点でございます。

それでは、審議の前に資料等について事務局に説明を求めます。お願いします。

事務局

今回の資料を説明させていただく前に、前回の資料に訂正がございますので、そのことについて説明させていただきます。

お手元の「令和2年度使用小学校用教科用図書調査書まとめ」をご覧ください。次の点につきまして誤りがございましたので、本日、正しく訂正したものを改めて配付させていただきました。

まず、93ページにあります保健の一覧表の「3.保健の観点」の中で学研を選択した学校の数が「20」となっておりましたが、正しくは「21」でございました。また、同じく保健の4つ目の観点となる「本校の児童の実態や地域等の特性との関連」の中で学研を選択した学校の数が「16」となっておりましたが、正しくは「17」でございました。

次に、103ページにあります英語の一覧表の4つ目の観点、「本校の児童の実態や地域等の特性との関連」の中で啓林館を選択した学校の数が「10」となっておりましたが、正しくは「11」でございました。

最後に、115ページにあります特別の教科道徳の一覧表の「3.道徳の観点」及び「4.本校の児童の実態や地域等の特性との関連」の中で、廣済堂あかつきについては選択した学校の数が「1」となっておりましたが、正しくは「0」でございました。

また、126ページにあります道徳の廣済堂あかつきの「その教科用が適切である理由」については、誤って記載されたものでしたので削除いたしました。

なお、市民相談情報課で公開している資料につきましては、正しい数字に直したものを本日より公開しております。数々の修正、大変申しわけありませんでした。今後、このようなことがないように努めてまいります。

次に、第2回審議委員会から本日までの特別支援教育に関する教科用図書の調査研究の流れについて説明いたします。

今回、ご審議いただく教科用図書は、学校教育法附則第9条に規定された教科用図書です。特別支援教育に関する教科書については、児童・生徒の実態に合った一般図書を充ててもよいとされているものでございます。

現在、全国の義務教育諸学校で教科書として使用しております一般図書のうち、比較的採択数が多く、かつ発行者が令和2

年度においても引き続き当該図書の発行、供給を予定しているものを文部科学省初等中等教育局教科書課が平成32年度用一般図書一覧としてまとめました。

この一般図書一覧を第1回審議委員会の際に皆様に配付しております。この一覧に載っている図書を展示した教科用図書研究会が5月9日から15日まで、県立総合教育センター善行庁舎で開催されました。

この研究会におきまして、白浜養護学校と市内小中学校特別支援学級の教員が実際に展示されている図書を見ながら在籍する児童・生徒の実態や、次年度入学する児童・生徒を想定して調査研究を行い、その結果、令和2年度使用に適すると思われる一般図書についての報告として教科用図書調査書が提出されております。

それでは、資料の説明をいたします。まず、サイドテーブルをご覧ください。そちらには、「令和2年度使用特別支援学校及び特別支援学級用教科用図書調査書」と「特別支援教育関係教科用図書見本」の一部が展示してあります。「令和2年度使用特別支援学校及び特別支援学級用教科用図書調査書」は、特別支援学級設置学校長及び特別支援学校長が自校の教師に調査研究させたものを簿冊としたものです。

次に、「令和2年度使用特別支援学校及び小学校もしくは中学校の特別支援学級用教科用図書調査書まとめ」です。これは、令和2年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書調査書をもとに事務局でまとめたものです。

こちらの1ページをお開きいただき、一覧表の一番上のところをご覧ください。この一覧表は、附則第9条による図書を3つに分けて表記しております。

まず1つ目は、「新」の文字を記載したもので、これは、今回、調査研究をした結果、新たに教科書としてふさわしいとして提

出された新規図書でございます。

2つ目は、「□」の記号を記載したもので、これは昨年度採択された図書で、本年度の調査研究の結果、複数の種目において教科書としてふさわしいとされた図書でございます。

最後、3つ目は、無印のもので、これは、昨年度採択され、本年度も教科書としてふさわしいと調査された図書でございます。

なお、21ページから26ページに新規図書と複数種目で希望のあった図書等を一覧表にして資料1としてお示しいたしました。この資料には、児童・生徒1人1人の特性や発達段階を踏まえた上で各学校が1人1人に適した教科用図書として選定した理由を記載してございますので、参考になさってください。

続きまして、17ページをご覧ください。一覧表の最後、No.10、道徳の欄の下のところでございますが、今お話をいたしました一般図書の他に、「点字教科書」、「拡大教科書並びに令和2年度使用小学校用教科用図書」、「令和2年度使用中学校用教科用図書」、「特別支援学校小・中学部用文部科学省著作教科用図書」がございました。

なお、「特別支援学校小・中学部用文部科学省著作教科用図書」につきましては、資料2として、27ページ、28ページにお示ししました。これは、第1回の審議委員会で資料として「特別支援学校用（小・中学部）教科書目録（平成32年度使用）」をお渡しいたしました。この中で知的障害者用として挙げられている図書でございます。この本は、いわゆる「星印本」と呼ばれているものでございます。

それから、一般図書を採択希望する場合の留意事項につきまして、29ページに資料3として記載させていただきました。

以上で資料の説明を終わります。

委員長 ありがとうございます。

 ただいま資料について説明がありました。

 なお、「令和2年度使用特別支援学校及び特別支援学級用教科用図書調査書」につきましては、個人情報等の問題がございますので非公開としたいと思いますが、いかがでしょうか。

各委員 結構です。

委員長 ありがとうございます。それ以外に資料等について何かご質問はございますでしょうか。

各委員 なし。

委員長 では、ないようですので審議に入ります。

 新規の図書については、本審議委員会が初めて審議する場になっておりますので、慎重な審議をお願いしたいと考えます。どうぞよろしくお願ひします。

 それでは、これから審議してまいりたいと思いますが、審議の進行について、何かご意見はございますでしょうか。志水委員。

志水委員 毎年のことなんですけれども、それぞれの学校からは子どもたちの障がいの特性ですとか、発達段階に応じて教科書として使用できる一般図書がたくさん出されています。特別支援学校や特別支援学級に在籍する子どもたちにとって、ふさわしい教科書として、附則第9条によって教科書として使用できる一般図書を幅広く用意することが大切だと思っております。

委員長 他に、ご意見はいかがでしょうか。三橋委員。

三橋委員　私も同じ考えです。今回、各学校で調査研究をした結果、教科書にふさわしいものとして、新規図書や複数の種目で使いたいという一般図書が数多く出されています。

本校の調査の様子を見ていても、児童一人ひとりの実態を踏まえて精査しておりますので、昨年度まで採択された一般図書は引き続き採択し、今年度新たに出された一般図書について審議する方向がよいのではないかと思います。

委員長　ありがとうございます。他には、東委員。

東委員　私も同様に感じています。この調査書まとめに示されている複数の種類で申請のある「□」の印の図書や、今年度新たに希望が出ている「新」並びに「新□」の印の図書について審議していくのはいかがでしょうか。

委員長　他にご意見はございますか。

各委員　なし。

委員長　それでは、ただいまのご意見を受けまして、各学校から希望が出ている一般図書について、教科書として使用できる方向で考えていくことと、これからの審議の進行については、新規の図書と複数の種目で希望が挙がっている図書について審議していくということによろしいでしょうか。

各委員　お願いします。

委員長　では、そのように審議を進めてまいります。

調査書まとめの印でいきますと、「新」と書かれた新規図書、そして、「□」の印がついている複数種目で希望がある図書に

ついてご意見を伺いたいと思います。新規図書や複数種目で希望がある図書については、No. 1 の国語・書写からNo. 10、道徳までの種目に合計34冊入っております。

審議につきましては、学校からの調査書には、どんな特性のある児童にどんな教科書がふさわしいかという点が挙げられていることから、子どもたちの実態や特性という視点からご意見を伺いたいと思います。

審議の都合上、分野を3つに区切って審議を進めたいと思います。

それでは、まず、No. 1 の国語・書写とNo. 2 の算数・数学の教科領域で申請が挙げられている14冊の図書についてご意見を伺いたいと思います。

では、よろしく願いいたします。いかがでしょうか。一瀬委員。

一瀬委員　　よろしく願いします。くもん出版から出されています「小学ドリル国語」の3冊、そして、同じく、くもん出版、「もじ・ことば12 漢字おけいこ」、同じく、くもん出版、「小学ドリル国語 6年生の文章の読解」「九九カード」「小学ドリル算数 学力チェックテスト算数2年生」についてなんですけれども、特別支援学級に通う児童のうち、特に知的に遅れのある児童・生徒や発達に偏りのある児童・生徒にとって、文字を丁寧に書く、それから、計算の技能を確実にする、読解力を身につける等、学習内容を定着させることは大変難しいことです。

同じ内容、それから、同じレベルの学習に繰り返し取り組むことで学習したことを確実に身につけるためにとっても必要になってくると思います。こういったドリル形式の教科書は、学習効果を高める上で大変有効だと感じております。

委員長　　他にご意見はございますか。田中委員。

田中委員 国語・書写の方から「あいうえおのえほん」です。まず、絵がとても優しい感じの絵で、その絵を見ただけで様子がわかる、イメージしやすいと感じました。その絵だけでもコミュニケーションが広がっていくのではないのでしょうか

その絵の反対側の方には、字を1ページいっぱいにあらわしています。これは、指書きができて、指書きを何度も何度も繰り返しながら、その平仮名について学べると思いました。

また、絵の説明も、例えば、「あ」の「ありがとう」から始まりますが、「ゆ」、「ゆきがふったらゆきだるまをつくろうね」、「る」、「るすばんはだれがきてもあけちゃだめ」、「ん」、「キリンさんがペンギンさんにごめんなさい」と、生活にもつながる場面がたくさんあり、とてもいいなと思いました。

委員長 ありがとうございます。他に、畠山委員。

畠山委員 まず、一瀬委員のおっしゃるとおり、繰り返しの学習はどの子にとっても必要な学びの1つだと思います。その観点では語彙も同様に必要で、繰り返し使ったり、遊びに取り入れたりして覚えていくことが大変有効だと思います。その観点で言うと、No. 2の「しりとりしましょ！たべものあいうえお」というのがあるんですが、この本は、まだドリルで読むとか書くとか、そういった方法で学ぶことが難しいお子さんたちが、しりとりという言葉遊びで言葉を覚えることができる本だと思います。子どもたちは、お友達や先生とのコミュニケーションをとりながら楽しく学ぶことができるので、飽きずに取り組めるのではないかと思います。

また、声に出して言うことで、言葉とそのものが結びつく、つまり認知力を高めることができるのではないかと思いますので、大変よいと思います。

それと同様に、No. 6、「あいうえおのえほん」も言葉を繰り返しながら学べる本だと思います。こちらは、音声から文字へと移る時期にちょうどよい本だと思います。田中委員がおっしゃるとおり、本当に絵本の中の動物が優しい色彩で描かれておりまして、書いてあることも、「ありがとう」で始まり、「ごめんなさい」で終わるといった温かさにあふれた言葉でつづられています。穏やかで落ちついた気持ちを持って学べる本ではないかと思いました。

委員長 他にご意見はいかがでしょうか。山田委員。

山田委員 私は、国語と算数に関しては、どのような思いでこの選定をされているかというところについてお話をさせてもらえればと思います。

非常に特性のあるお子さんに対して、どのような手がかりで学びというところを届けようかという温かい思いがすごく伝わる内容が非常に選ばれているなという印象を持っています。

国語と算数に関しては、繰り返し解いていくというところを先ほども先生方がおっしゃっていただいていたけれども、繰り返すことが、できることと、わかることでしっかりと身につけて、その学ぶ意欲にさらにつなげていくということうまく生かしていきたいということが選ばれている内容だと思いますので、非常に温かみがあっていいなという印象を持っています。

委員長 ありがとうございます。他にご意見はいかがでしょうか。和智委員。

和智委員 今、山田委員からお話がありましたが、特性のあるお子さんへの手だてということに関しては、配慮する必要があります。

畠山委員のお話にもありましたが、人とのかかわり方に課題のある子どもにとって、「ありがとう」とか、そういった挨拶でお互い温かい気持ちになれることを知るとか、気持ちをあらわす言葉を使って自分の思いを伝えることで仲よくなれるといった経験ができる活動は大切だと思います。

そういう観点から申し上げますと、過去に道徳で採択されていた1番の「講談社の年齢で選ぶ知育絵本4・5・6さいのきもちをつたえることばのえほん」という本は、挨拶や人の呼び方、尋ね方、きっかけの言葉といった項目を立てて、言葉で思いを伝えることに重点を置いて書かれていますので、今回申請されている国語の教材としても適していると思います。短い物語やイラストを使ってわかりやすく、具体的な場の設定がされていて、日常生活に生かしやすいのではないかと思います。

また、同じように11番の「ピーマン村の絵本たち おおきくなるっていうことは」という本は、成長するという具体的な事例を示しています。まず体の成長から始めて、内面の成長、そして、異学年の子どもとのかかわりの中での成長へと目を向けさせていく内容で、やはり言葉を通して自分や他者とのかかわりについての意識を育てるという点では、かながわ教育ビジョンにある思いやる力を育むことのできるよい教材ではないかと思いました。

委員長 ありがとうございます。他にご意見はありませんか。中川委員。

中川委員 お願いします。私も、先ほど和智委員が取り上げておられました、過去に採択されて、教科を変えて採択することになる「□」の図書について、特に3番、4番、12番についてお話しさせていただきます。

今までの委員の方も特性のある子どもたちに合わせたという

話をされていましたがけれども、まず、3番、「おととあそぼうシリーズ7 ドン！ドコ！ドン！たいこ」ですが、視覚的に文字や文章を覚えることは苦手なだけで、日常的に音楽を聞きながら、聴覚的に歌詞やキャッチコピーを唱えることが得意な子どもたちには効果的な図書だと思います。音楽で採択された本ではありますが、結果的に日常的に本を手にしなが、音楽を楽しみながら言葉を獲得していくので、国語としての使用も可能であると思います。

次に、図工・美術の本として既に採用されている4番、「あそびのおうさまBOOK どんどんぬるほん」ですが、文字を書く前段階の子どもや、文字を書くことが苦手な子どもたちにとっては、筆記具を使って塗ることを楽しみながら自然に文字を書く力を身につけていくことができるので、これは国語・書写の本としても適していると考えます。

最後に、12番、「CDつき小学生の英語レッスン 絵で見て学ぼう英会話」です。英語の入門期の内容というのは、子どもたちの日常的なコミュニケーションを取り扱っています。絵も会話の様子をわかりやすくあらわしているので、視覚的に会話と行動をつなげることができ、英語に興味・関心を持ちながら日本語の日常会話能力を獲得していくことができます。英語採択の図書ではありますが、国語での使用も有効であると考えます。

委員長

ありがとうございました。その他はいかがでしょうか。

それでは、続きましてNo.3の生活・地図・社会からNo.5の音楽・器楽の教科領域で申請が上がっている10冊の図書についてご意見を伺いたいと思います。この中には、他の種目でも希望が挙がっている図書がありますので、それも含めてご意見を伺いたいと思います。それでは、よろしく願いいたします。
三橋委員。

三橋委員 地図の本が2冊あるのでお話ししたいと思います。

No. 3の生活・地図・社会の1番です。「キッズ・えほんシリーズ 日本がわかるちずのえほん改訂版」は、都道府県ごとに地理的特徴や産業を、また、同じく3番の「改訂新版辞書びきえほん世界地図」は、国別に地理的特徴、産業、観光名所をまとめています。地図と、その国の特徴、産業、観光名所などを関連づけて理解することが難しい児童にとっては、どちらも学びやすい本だと考えます。

また、採択替えの本なんですけれども、生活・理科の2番の「あそびのおうさまBOOK はじめてきるほん」なんですけれども、図工・美術で採択されていて、今、支援級でもいろいろな学校で使われている本です。今回は、生活・理科での希望なんですけれども、はさみとかのりとか、毎日、生活で使う道具の使い方を学習するというのは、図工・美術に限らず子どもの将来の自立に向けてとても大切なことだと考えますので、適しているのではないかと思います。

委員長 ありがとうございます。他にご意見はいかがでしょうか。
田中委員、お願いします。

田中委員 生活、社会、理科、その関係の本は、今、自分の子どもが卒業してからも毎日毎日手放さずに大事に大事に使っております。それだけやはり身近にあった本なのではないのかなと思います。今回は、No. 3の生活・地図・社会の1番、「キッズ・えほんシリーズ 日本がわかるちずのえほん改訂版」についてお話しさせていただきます。

これもやはり、各都道府県の絵がありまして、その特徴を北海道はカニのはさみのようだねとか、青森県はおのの形のようなど、イメージがしやすい表現がとてもよいなと思いました。

また、都道府県のところには小さく日本の地図も載っていて、日本の中のどこにこの県があるのかというのも比べられてよいなと思いました。

委員長 ありがとうございました。他にご意見はありますか。岩成委員。

岩成委員 私は、生活・地図・社会の4番、「こどものずかんM i o 1 0 たべもの」、それから、その5番、「こどものずかんM i o 1 2 きせつとしぜん」、生活・理科の1番、「こどものずかんM i o 7 くさばな・き」、これら3冊についてまとめてお話をさせていただきたいと思います。

特別支援学校や特別支援学級に在籍する児童・生徒は、興味・関心が限定的であるということが往々にしてあります。これら3冊の図鑑のように1つのものに特化して詳しく紹介されているというものは、そういった実態を持つ児童・生徒にとって学習に取り組むための有効な手段となります。また、3冊とも学習の広がりを手助けする幅広い内容で、児童・生徒の教科用図書としてふさわしいと考えます。

委員長 ありがとうございました。他にご意見はございますでしょうか。長田委員。

長田委員 私は、ちょっと前後するんですけども、No.5の音楽・器楽について、まず触れたいと思います。

1番、ポプラ社の「おととあそぼうシリーズ」についてですが、どの学校の特別支援でも活動実績のある教材だと感じています。今回のシリーズ31については、手遊び、身振り、手振りなど、五感を使って歌いながら、遊び感覚で脳の発達を促す素晴らしい教材だと思いました。曲目も童謡から世界の民謡ま

で幅広く取り上げられています。

また、No. 3、生活・地図・社会の7番に当たります「五味太郎・言葉図鑑（6）くらしのことば」については、言葉の裏にある気持ちや気分など、目に見えない部分の理解を促すのは非常に難しいことですが、その場に合った言動を、絵を参考にしながら身につけていくことは、日常の生活の中で直面するさまざまな場面で必要だと考えます。

そういう意味では、いたわりの言葉と励まし言葉、けなし言葉とおだて言葉、喜び言葉とぼやき言葉など、見開きでわかりやすく表記されていて、繰り返し学習できる秀逸な作品だと思います。この教材を通して、作品との対話、仲間との対話、親子の対話と、あらゆる場面で活動ができると感じました。

委員長 ありがとうございます。他にご意見はございますでしょうか。
田部井委員。

田部井委員 長田委員に続き、私も生活で挙がっている2冊についてお話をさせていただきます。

まず、2番の「子どものマナー図鑑（4）おつきあいのマナー」という本なんですけれども、言葉の意図を読み取ることが苦手な児童・生徒にとって、日常生活の中で人との関係や距離のとり方がわからず、こんなときどうすればいいんだろうと困ってしまうことが多々見られます。そんなとき、どんな言葉でどう行動すればよいのかがわかりやすく示されているので、基本マナーを身につける学習に有効だと思います。

次に、6番の「絵でわかるこどものせいかつずかん3おでかけのきほん」ですが、校外学習や買い物学習のときの行動や注意点がわかりやすくイラスト図版で示されています。事前学習に活用することで、コミュニケーションが苦手な児童の不安感を取り除き、見通しを持たせることができます。

また、道徳と関連づけて公共のマナーをわかりやすく繰り返し学ぶことができると思いました。

委員長 ありがとうございました。他にご意見はございますか。田中委員。

田中委員 今お話があった本なんですけれども、「おでかけのきほん」という本の中の絵と説明があるんですけれども、説明文がとても短くて、短い言葉で表現されているのは子どもたちの頭に入りやすいんじゃないのかなと思いました。

委員長 ありがとうございました。他にご意見はございますでしょうか。

小林委員、ここまでで何かご意見がございましたら、いかがでしょうか。

小林委員 他の教科でも大丈夫ですか。

委員長 現在、No. 5 までです。

小林委員 では、すみません、No. 1 に戻って、2 番「しりとりしましよ！たべものあいうえお」の絵本が、うちの息子は、今、養護学校の 6 年生なんですけど、この絵本は下の学年のときに使ったことがありまして、音のリズムがすごく心地よいのか、その内容を結構覚えていました。今回のこの教科書とはちょっと違う内容なんですけれども、言葉遊びという感じでよく覚えていたのを覚えています。

あと、この絵本のイラストの絵が、そのものの特徴をすごく優しく捉えている感じがして、私は絵もいいなと思っていました。

次に、3番の太鼓が鳴る「おととあそぼうシリーズ」、これもよく使っていました。ばちを使うというのがすごくよかったみたいで。ただ、音がすごく大きいので、教室で使うと、ちょっとうるさいかなというふうに思って。しかも、何度も何度も繰り返して音を出してしまうので、そこはどうかかなと。これは家の方で使っていたので、すごく大きい音で出していたんですけれども。音の調節機能がなくて、1つの音の大きさしかないんです。

あと、9番のくもんの「もじ・ことば12 漢字おけいこ」、これが、例えば目という漢字を書くときに、その目の上には女の子が目を指差す絵が描いてあるんですけれども、これは、その子によるとは思うんですが、その方がイメージしやすい子と、自分の子で例えると、多分混乱するかなと思いました。

目という漢字を書こうとしたときに、また、それを覚えたときに、それが自分の目と同じものかどうかという意味は、また次のステップでやることなのかかなと。それを同時にやろうとすると、うちの子はちょっと混乱するのかなと思ったんですが、それをイメージしやすい子もいるのかなと、そういう感じで見えていました。No. 1の国語はそんな感じでした。

次の算数・数学のくもんの「九九カード」です。こういう絵カードはとっても好きで、めくってあげたり、あと、リングに通して自分でもめくれるような形にもできるんですが、これはすごくいろんな絵カードに興味を持って見ている、ものを覚えたりとかもしていて、この九九に関しては持っていないんですが、恐らくこれも見るだろうなと。

この九九というのが、もちろん概念はわかっていません。ただ音で全て記憶して、例えば、二二が四というのも全部覚えて、ほぼ九九全部言えるんですけれども、それもやっぱり見て、あと、音があればさらにいいのかなと。興味を持つという意味では、くもんのカードはすごくお世話になっています。

次が、生活・地図・社会の6番の「絵でわかるこどものせい
かつずかん3 おでかけのきほん」、これがとてもわかりやすく
て、場面が細かく分かれていて、吹き出しが中であって、言葉
が書いてあるんですが、うちの子どもは割と言葉が出ます。相
手の言葉を繰り返してオウム返しみたいな会話をするので、こ
の吹き出しを一緒に見ながら読んであげると、本人も繰り返して
言うのかなと。

例えば、お友達の家で本が気になったら、「あのほんみてみ
いい？」という吹き出しがあるんですけれども、それも何回も
見ていくうちに、その状況とかも理解できて、本当にその場面
で使うことができるかなと思って、これはすごくいいなと思い
ました。

その次の「五味太郎・言葉図鑑(6) ぐらしのことば」、こ
れも同じような感じで、本がすごく大きいので、ちょっと大き
いかなと思ったんですけれども、その大きさを十分に生かして
いるというか、ぱっと見てわかりやすく、短いフレーズがいっ
ぱい書かれていて、挨拶とかも大好きで、今、お友達への声か
け練習とかをしている最中なんですけれども、何て言葉をかけ
ていいかもすごくわかりやすいので、本当にこの絵本は実際
に見せて、1つずつ言葉に出して言ってあげたいなと思いました。

すごく小さいころ、小学校1年生で、まだそんなに言葉も出
ていなく、言葉の理解も進んでいないころに、なぜかプラスの
言葉というふうに担任の先生は言っていたんですけれども、い
い言葉をすごく喜んで聞いていて、逆にマイナスの言葉、ちょ
っとばかにするような言葉だとか、嫌だと思えるような言葉を発
する子に対して、すごく嫌な気持ちになり、その子は自分に言
っていないのに、自分に言われたかのように攻撃的になってしま
うというのがすごくあらわれて、いつも担任の先生が「プラ
スの言葉をお願いします」という感じで周りの子どもたちとか
先生とか、親もそうなんですけれども、声かけをしていたのが

印象的です。

なので、言葉の意味がわからなくても、うれしい言葉、いい言葉というのはやっぱり表情に出るのか、すごく反応していたのを記憶していて、今でもそれはそうなんです、この絵本の中に「よろこびことば」というページがあって、みんながいろんないい声掛けをお友達にするというページがあるんですけども、それは本当に本人に読ませて、自分で笑顔になっていくと、こういう声掛けをすると、自分もお友達もうれしくなるんだなというのを体感できるかなと思いました。

そんな感じですよ。

委員長 どうもありがとうございました。すみません、到着してすぐに振ってしまって。ありがとうございました。

それでは、改めまして、他にいかがでしょうか。ここまでよろしいでしょうか。

各委員 なし。

委員長 それでは、最後にNo. 7の家庭・職業家庭からNo. 10の道徳の教科領域で申請が上がっている10冊の図書についてご意見を伺いたと思います。先ほどの教科領域で申請されている図書も含まれておりますが、加えてご意見等がありましたら、よろしく願いいたします。それでは、いかがでしょうか。古島委員。

古島委員 家庭・職業家庭の新規図書2番の「おてっだいの絵本」と3番の「生活図鑑カード 生活道具カード」の2冊についてお話しします。

どちらも実生活に即した内容で、児童・生徒が自立に向けて身につけたい内容を視覚的にわかりやすく学ぶことができる

考えます。まず、「おてつだいの絵本」は、掃除や洗濯などの家の仕事が、家族が安全に気持ちよく生活するために必要であるということをイラスト等を用いて児童・生徒に理解しやすく示しています。

また、取り組んだ後の気持ちを、気持ちいい、心がつながるといった登場人物の声として示すことで、児童・生徒が相手の気持ちを理解することができるように働きかけています。

生活道具カードは、言語での表出が難しい児童・生徒がカードを活用することで学んだことを表現したり、他者とのコミュニケーションを図ることに有効であると考えます。先ほど田中委員が、お子さんがずっと使っている本があるというふうにおっしゃっていましたが、どちらもこの本は同様に親しみやすく活用できるものではないかなというふうに思います。

委員長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。志水委員。

志水委員 今、古島委員もおっしゃっていましたが、特別支援教育にかかる子どもたちにとって、生活自立ですとか、あるいは職業自立を目指すということは、そういった指導は大変大切だと思っています。特別支援学級や特別支援学校では、特に实际的で具体的な内容の指導が必要ですし、体験的な内容を含んだ学習が大切になってきます。この家庭・職業家庭の1番、「職業・家庭たのしい家庭科 わたしのくらしにいかす」という本を拝見しましたが、国立特別支援教育総合研究所の研究員の方が監修にかかわっているということもありまして、知的な遅れのある生徒にとっては身近な15の題材をイラストですとか写真をたくさん使って、読みやすく、わかりやすいつくりになっていると思いました。ほぼ1冊全て授業に使えるように構成もよく考えられています。

また、今お話ししました自立に向けた实际的、具体的な内容

の指導という視点で、コミュニケーションに課題のある児童・生徒にとって学びやすい本だなと感じましたのは、先ほどからさまざまコミュニケーションに課題のあるお子さんについてのお話もありましたけれども、No. 10の道徳にある1番の「子どもの生きる力を育てるせいかつの絵じてん」、2番の「子どものマナー図鑑(3)でかけるときのマナー」、この2冊です。どちらもこれまでに生活・地図・社会で採択されているものですが、生活のさまざまな場面を取り上げてコミュニケーションに必要な基本的な事項を、やはりこちらもイラストなどで具体的に示しています。年間の学校生活に合わせて、事前学習ですとか、あるいは事後の振り返り学習にも使えますし、また、児童・生徒の様子や必要な場面にタイミングよく繰り返して扱うこともできると思います。道徳としても適している本だなと思いました。

委員長 ありがとうございました。他にいかがでしょうか。井上委員、お願いします。

井上委員 私はNo. 9、英語ですけれども、くもん出版の「えいご1 はじめてのアルファベット」についてお話しします。

この本は26個の大文字を書くドリルで、1枚ずつはがして、シートにして使えます。絵やシールや、また最後の表彰状など、たくさん楽しい工夫があるんですけれども、特に秀逸だと思ったのは練習する文字の順番です。アルファベット順ではなくて、文字を構成する線の特徴によって難度の低いものから順番に出てくるので、各作業に課題のある児童・生徒にとって大変取り組みやすいと思います。

まず、LとかTなどの垂直や水平の直線に始まり、次にXとかAなどの斜めの直線が組み合わさり、さらにDやUなどの曲線が入ってきて、最後はS、O、Qとなります。自分が中学校

で英語を教えているときには、このような形に注目した分類を意識したことがほとんどなかったので、感心しました。

最初の方で練習した文字も繰り返し出てきて、大きさがだんだん小さくなっていったり、それから、なぞり書きの指示が減っていったりというふうに、自然に上達するようになっているので、子どもたちが夢中で取り組む様子が目に浮かぶような気がしました。

委員長 ありがとうございました。他にいかがでしょうか。それでは、田中委員。

田中委員 今、井上先生の方からお話があったように、「えいご1 はじめてのアルファベット」ですが、やはり今おっしゃったように、縦の線から始まり、だんだんと折れ曲がる線や、曲がった線に移行していく、ふだん慣れ親しんでいる平仮名とは全くスタイルが違うアルファベットに無理なく自然になじんでいけることが大事だと思いました。

あと、道徳の方の「学校では教えてくれない大切なこと(2) 友だち関係(自分と仲良く)」、あともう1つ、「学校では教えてくれない大切なこと(6) 友だち関係(気持ちの伝え方)」という本ですが、自分の気持ちをうまく伝えるのが苦手なお子さんですとか、コミュニケーションをとるのが苦手な相手に誤解を与えてしまいやすいようなお子様の、自分がどうしてそうなってしまったのかな、どうしたらよかったのかなというのが、漫画を通じて自分の気持ちに伝わるような、自分自身に響くようなところがいいなと思いました。

ちょっとコミュニケーションの苦手な特別支援のお子様だけではなくて、その他いろいろな学校のお子様にも読んでいただきたい本だなと思いました。

委員長 ありがとうございます。他にいかがですか、東委員。

東委員 私も、今、田中委員がおっしゃったのと同じように、道徳の新規図書の3番と4番、「学校では教えてくれない大切なこと（2）友だち関係（自分と仲良く）」と「学校では教えてくれない大切なこと（6）友だち関係（気持ちの伝え方）」の2冊についてお話ししたいと思います。

 何度かコミュニケーションに課題のある児童・生徒についてのお話が出てきていますけれども、想像力が弱かったり、イメージ化しにくいために、人の気持ちを理解したり、人との距離感を上手にとることが苦手で、生活場面でも難しさがあります。この2冊の本では、生活や対人関係の場면을漫画で示していて、吹き出しを使って、どのようなやりとりが想定されるのか、それから、そのときどのように感じて、どのように対応するのかを理解することができるようになっています。

 見えにくく、理解しにくいことを視覚化して認識させて、自己の表現スキルや対人スキルを習得させるために活用できると思いました。

委員長 ありがとうございます。それでは、山田委員、お願いします。

山田委員 No.10の道徳の領域に関しては、各先生方とか田中委員もその特徴というところをしっかりと伝えられている中で感じたこととしては、やはり、これから自立していくというステージをお子様方が迎えていくに当たって、どうすることが接する上で必要なのかということの手がかりをしっかりと見つけていくヒントとして見える形になっているものが、今回提示されているものに関しては非常にクリアに見えているのかなというふうに思っています。

 学習をしていく上で、手本を見て、その手本をまねて行って

自分のものにしていくというステージは非常に大事だと思いますし、また、気持ちを伝えるという、先ほども出てきましたけれども、形に見えないものをどのように理解するかというところの手がかりというのは、この中にはしっかりと詰まっているなと感じました。

委員長 ありがとうございました。他にご意見はございますでしょうか。小林委員。

小林委員 家庭・職業家庭と道徳の教科書について、どれも自立とか、生活に必要な情報が載っていて、本人に理解できたら読ませたいなという内容が多かったんですが、じゃ、どういうふうを書いてあれば本人がわかりやすいのかなというところで見比べていて、家庭・職業家庭は、1番の教科書、「職業・家庭たのしい家庭科 わたしのくらしに生かす」、道徳についても1番の「子どもの生きる力を育てるせいかつの絵じてん」、この2つが配列の仕方がわかりやすいんじゃないかなと思いました。うちの子は、1ページにたくさんの情報が載っていると、どこを見ていいかわからなくなっているようで、シンプルなのが一番伝わるんじゃないかというのは何となく感じています。

そこを基本に読み進めると、道徳の1番の方は、絵じてんだけに絵の情報がたくさんあるんですけども、その絵の配置が区切られていて、順番に見られたりとか、ぱっと開いたときに、どこを見ていいかわからないということが起こりにくいんじゃないかなというのはすごく感じました。それは、家庭・職業家庭の1番の教科書も同じなんですけど、配列というところがすごくよくて、内容も身につけてほしい内容が詰まっているなと感じました。

あと、英語なんですけど、うちの子は、平仮名よりも数字、アルファベットを先に覚えました。恐らく形が認識しやすいんじ

やないかなと思ひまして、もちろん書く段階にはまだ行かないときに、見て覚えるのは数字とアルファベットがまず最初で、小学校も高学年になってきたので、平仮名を何とか自分の名前だけでも書けるように、今、一生懸命練習しているんですが、やっぱりなかなか丸みを帯びた字がうまくなぞれないようで、ふと、くもん出版の、この英語のアルファベットを見たときに、真っすぐの線とかだつたら、むしろこっちの方が自分で書けるかなと思つて、ちょっと担任の先生に言つてみようかなと思つて。平仮名もそうなんですけれども、ちょっとなぞるといふことになれるのに、もしかしたらアルファベットをやらせた方が、もともと好きなので進んでやるんじゃないかなと思つて。そこは私の中でも新しい発見でした。

委員長 ありがとうございます。他にご意見はございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、全体を通じて何か補充であるとか、追加であるとか、ご意見がありましたらお伺いいたします。よろしいでしょうか。

各委員 なし。

委員長 それでは、他にご意見がないようですので、議題1「令和2年度使用特別支援学校及び小学生若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書について」の審議はここまでとしたいと思います。

ここで10分間ほど休憩をしたいと思います。10時5分になりましたら審議を再開いたしますので、よろしくお願ひします。

それでは、休憩といたします。

午前 9 時 5 6 分休憩

午前 1 0 時 5 分再開

委員長 それでは、引き続き審議を行いたいと思いますが、議題 2 の審議を行う前に、ここでちょっと順番が前後してしまいましたけれども、次第にございます（1）会議録署名委員の指名について、申しわけございません、行っておりませんでしたので、指名をさせていただきたいと思います。

 前回と同様、私と、その他に井上委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

各委員 よろしくお願ひします。

委員長 それでは、井上委員、お願いいたします。

井上委員 承知いたしました。よろしくお願ひします。

委員長 それでは、引き続きまして、議題 2 「令和 2 年度使用中学校教科用図書について」審議を行いたいと思います。

 中学校の教科用図書の審議につきましては、前回の審議委員会の際に、国からの通知に、「4 年間の使用実績を踏まえつつ、平成 2 7 年度採択における調査研究の内容等を活用することも考えられる」と示されていることから、中学校の校長先生お 2 人に、現在使用している教科用図書について、各中学校の使用実績を確認いただくことになっておりました。

 まず、井上委員、長田委員より、中学校における使用実績を教えてくださいたいと思います。

 それでは、井上委員、お願いいたします。

井上委員 今ありましたように、中学校の教科用図書につきましては、

前回の採択から3年余りの使用を経たこととなります。この間の各中学校での使用実績につきまして、中学校校長会でも確認をいたしました。実際に使用している教員に聞き取り等をしてみましたところ、教科書によっては使いづらさがあるということでしたけれども、必要なことを資料や補助教材で補うなどの工夫をしながら、全体としては現学習指導要領の示す目標に向かって指導をできているということでした。

また、昨年、2018年度からは、再来年、2021年度に全面実施となります新学習指導要領への移行期間ですので、既に現在の教科書を用いて計画を立て、新しい時代に必要となる資質・能力の育成に取り組んでいるところです。

また、今年度の採択に関しましては新しい教科用図書の申請がありませんでしたので、来年度は現在使用している教科書を用いて、新学習指導要領への移行に備えながら、全面改訂となる新しい教科用図書の研究と採択に時間をかけて丁寧に取り組むということが適当であると考えております。

委員長 どうもありがとうございました。

 続きますして、長田委員はいかがでしょう。

長田委員 私も井上委員の意見に賛成です。本校の教職員の教科書の使用実績を確認しましたところ、どの教科も教科書を活用しながら、各教科の目標を達成するためにさまざまな資料を活用し、工夫している様子が伝わってきました。昨年度からは新学習指導要領の移行期間を意識し、履修に無理がないように研修を積みながら努力しています。

 今回、審議委員長宛てに、中学校用教科用図書の採択審議について要望が届いていることも承知しています。使いにくさがある教科書もあると聞いていますが、全教科押しなべて見ると、おおむね教職員が工夫をしながら、ねらいに沿って目標を達成

するように事業を進めている様子があるので、生徒、教職員双方の負担も考えて、現在使用している教科用図書を引き続き使用し、来年度、新学習指導要領に則った新たな教科用図書の採択で検討していくのが相当だと考えます。

委員長

ありがとうございました。中学校の実績について丁寧にご確認いただき、ありがとうございました。

お2人の委員からは、教科書によっては使いづらさはあるものの、おおむね教職員が工夫をしながら、新学習指導要領への全面実施に向け、現在の教科書を用いて、新しい時代に必要となる資質、能力の育成に取り組んでいるとのことでした。

また、今年度新たに申請された教科用図書もなかったため、来年度は現在使用している教科書を用いて新学習指導要領への移行に備えたいということでしたが、これにつきましては、昨年度の小学校が同じ状況であったと思います。小学校長の委員の皆様は、昨年度採択替えを行わず、本年度、平成26年度使用の教科用図書を使っておりますけれども、本年度の使用状況につきましてはいかがだったでしょうか。岩成委員。

岩成委員

昨年度、小学校でも同じような状況が確かにありました。審議の結果、現在使用している教科書を引き続き使用するとした経緯があります。理由は、各小学校において使用していて、特に問題がなかったこと、また、あと1年だけの使用であるといったことでした。

教育委員会においても、それらの理由により採択替えを行わず、平成26年度使用の教科用図書を引き続き採択することが決定されました。そのことにより、児童・生徒、教員にとっての負担が軽減されたと思います。

井上委員、長田委員が述べたように、来年度は2021年度から全面実施となる新学習指導要領に則った新しい教科用図書

の研究と採択に時間をかける方が私もよいのではないかと思います。

委員長 ありがとうございました。他にご意見はございますでしょうか。中川委員。

中川委員 私も同様に考えます。小学校では、継続使用したことで、児童にとりましては各教科書を使用する中で、それまでの学習の流れを変えることなく、見通しを持って授業を進めることができました。混乱を招くことはありませんでした。

また、教師にとりましても4年間の教材研究の積み重ねや授業展開の共有をすることにより、一歩進んだ深い学びを児童に保障できているのではないかと思います。

したがって、新学習指導要領が全面改訂となる再来年度に向け、来年度の採択審議を丁寧に行った方がよいのではないかと考えます。

委員長 ありがとうございました。他に小学校の先生方、いかがですか。よろしいですか。

昨年度は小学校の採択替えの年度でしたけれども、審議委員会の答申を受け、教育委員会では引き続き平成26年度使用の教科用図書を使用することが決定されました。そのことにより、引き続き同じ教科書を使用しているわけです。

しかし、子どもたちも教員も、これまでの学習の流れを変えることなく、4年間積み重ねてきた教材研究を生かすことができているように、私も現場を見ながら感じているところです。

他にご意見はございませんでしょうか。井上委員。

井上委員 ただいま本年度の小学校の様子をお聞きしまして、やはり、中学校でも現在使用している教科用図書を引き続き使用して、

新学習指導要領の全面実施に向けて準備に集中するということの方が子どもたちにとっても、また教員にとっても有益であると改めて思いました。

中学校といたしましても、ぜひそのような方向で進めていただきたいと思えます。

委員長 ありがとうございました。皆様、いかがでしょうか。

各委員 それでいいと思えます。

委員長 それでは、令和2年度使用中学校用教科用図書について確認いたします。中学校用教科用図書については、新学習指導要領の移行期間であり、全面実施に向けて現在の教科書を使って計画的に準備を進めている状況であること、新たな教科用図書の申請がなかったこと、あと1年間だけの使用であることから、新しく採択替えをする必要がないと考え、現在使用している教科用図書を引き続き使用するという事を審議のまとめとしてよろしいでしょうか。

各委員 結構です。

委員長 ありがとうございます。

それでは、議題2「令和2年度使用中学校用教科用図書について」の審議はここまでとします。

引き続き、議題3「令和2年度使用藤沢市教科用図書に関する審議結果の答申について」の審議を行いたいと思えます。

昨年度の答申については、各議題の審議結果をまとめた「審議のまとめ」を作成し、会議録を添付資料としておりました。今回の答申をどのような形にするか、ご意見をお願いします。和智委員。

和智委員 昨年度の審議結果のまとめを拝見いたしました。とてもわかりやすいと思いましたので、昨年度同様、審議をまとめたものを答申とすることに賛成です。

委員長 ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。田部井委員。

田部井委員 答申としてお示しするには、審議の結果がわかりやすいということが、やはり大切だと考えます。審議の結果を昨年のようにわかりやすくまとめたものを答申とし、参考として会議録を添付するのがよいかと考えます。

委員長 他にいかがですか。

それでは、答申につきましては、審議の内容をまとめたものを作成し、会議録については参考に添付するというご意見をいただきましたが、その方向でよろしいでしょうか。

各委員 結構です。

委員長 それでは、答申につきましては、2回目の「小学校用教科用図書の審議」、並びに3回目の「中学校用教科用図書の審議」、「特別支援学校及び特別支援学級用の教科用図書」についての審議を審議の結果としてまとめ、答申するとともに、資料として会議録を添付することとします。

改めまして、議題3「令和2年度使用藤沢市教科用図書に関する審議結果の答申について」確認します。

1点目の、第2回審議委員会における議題「令和2年度使用小学校教科用図書の審議について」は、審議してきた結果を種目ごとにまとめた資料を私の方で作成し、それをもって答申と

すること、また、審議の会議録を参考資料として添付し、答申とすることでいかがでしょうか。

各委員 　　お願いします。

委員長 　　2点目としまして、本日の議題2「令和2年度使用中学校用教科用図書の審議について」は、新学習指導要領の移行期間であり、全面実施に向けて現在の教科書を使って計画的に準備を進めている状況であること、新たな教科用図書の申請がなかったこと、あと1年間だけの使用であることから、新しく採択替えをする必要がないと考え、現在使用している教科用図書を引き続き使用するという事によろしいでしょうか。

各委員 　　はい。

委員長 　　3点目としまして、本日の議題1「令和2年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書について」は、子どもの実態や発達段階に応じて幅広く一般図書の採択が可能となるように、昨年度まで採択されている一般図書は引き続き使用できること、今回審議を行った教科用図書として使用したいと考えている新規図書や複数種目で希望がある一般図書はいずれも適切であることと考える旨を答申したいと考えますが、いかがでしょうか。

各委員 　　よろしくお願いします。

委員長 　　ありがとうございました。

　　なお、会議録につきましては添付資料とし、私と署名委員の井上委員で確認した後、答申をするようにしたいと思いますが、いかがでしょうか。

各委員 　　お願いします。

委員長 　　ありがとうございます。他にご意見等はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

各委員 　　なし。

委員長 　　それでは、議題3についての審議を終了いたします。
これで予定された議題に関する審議は終わりましたが、全体を通して皆様から何かご意見はございますでしょうか。

各委員 　　なし。

委員長 　　それでは、事務局から何かございますか。

事務局 　　それでは、今後の予定について説明いたします。
事務局といたしましては、今後、本審議委員会の会議録を作成いたしまして、審議委員長に確認いただきます。審議委員長におかれましては、ただいまの審議の結果を踏まえて答申を作成いただき、会議録を資料として添付し、署名委員に確認をしていただきます。その後、審議委員長から教育長への答申を行うこととなりますので、よろしく願いいたします。
以上でございます。

委員長 　　ありがとうございます。
それでは、これを持ちまして全ての審議を終了いたしましたので、第3回令和2年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会を閉会いたします。本日はありがとうございました。

この会議の結果の記載に相違ないことを、確認する。

署名委員